

2013



The Faculty of Law Kyushu University

九州大学法学部



KYUSHU UNIVERSITY 2013

INTRODUCTION TO THE COLLEGE OF LAW

CONTENTS

学部長挨拶	1
カリキュラム	2
講義紹介	4
Q&A	10
教員紹介	16
大学院法学府案内	20
法科大学院案内	21
国際交流	22
就職・進学について	24
LPセミナー	26
卒業生からみなさんへ	27
アクセス	29

九州大学法学部広報委員会

編集に協力してくれた法学部生のみなさん

柏田 幸成・實政 恭平・瑞慶山 広大
松藤 愛子・元野 優・山崎 健太
吉田 浩亮





九州大学法学部長
酒匂 一郎

法学部進学を志す皆さんへ

大学の法学部で学ぶのは私たちの社会生活のソフトウェアとしての法と政治です。高等学校までの教育でも社会科の科目の中で法と政治のあらましについては学んできたことと思います。大学の法学部ではそれをさらに専門的に学ぶこととなります。私たちの社会生活は自然や科学技術のもたらすインフラストラクチャーなどのハードウェアを基礎にしています。その上で、経済や文化、そして法や政治などのソフトウェアが機能していると考えられます。これらのソフトウェアのうちでも、法と政治は社会生活の秩序を形成し運営することに関わっています。それは社会生活のハードウェアやその他のソフトウェアに関する秩序の形成と運営にも関わっています。法学部で学ぶのは社会生活のこの重要な側面なのだといえます。

法と政治というソフトウェアの中心的な機能は、立法、行政、そして司法です。これらの機能そのものはその権限や手続や基準について憲法や関連の法律によって規定されています。法や政治の働きはそれ自体が法によって秩序づけられているわけです。これは「法の支配」という基本的な考え方の一つの現れです。立法は実質的には政治の働きであり、民主的な政治のプロセスを通して行われます。行政と司法は法を適用する働きですが、行政は法に規定された範囲内で政策を決定し執行するという政治的な側面を含みます。これに対して司法は基本的に政治の作用を含まない、その意味で純粋な法の働きといえます。司法は犯罪や紛争を憲法や法律に基づいて公正に裁判し、人々の権利や義務を確定することを使命とするわけです。

法と政治の働きはもちろんこれらにとどまりません。売買、貸借、雇用、婚姻、会社の設立や合併など、私たちが社会生活の中で行う様々な行為は人々の権利義務関係に関わる法的な行為です。政治の働きには、国や地方自治体の基本的な目標について、また社会生活の中での様々な問題の解決方法について意見を形成していくとか、諸外国との間で、また様々な団体との間で交渉を行うとかも含まれます。これ

らの法と政治の働きが経済や文化とも密接な関係をもつことはいうまでもありません。さらに、現代では法も政治も様々な局面で新たな国際化やグローバル化の波に直面していることはご存知のとおりです。

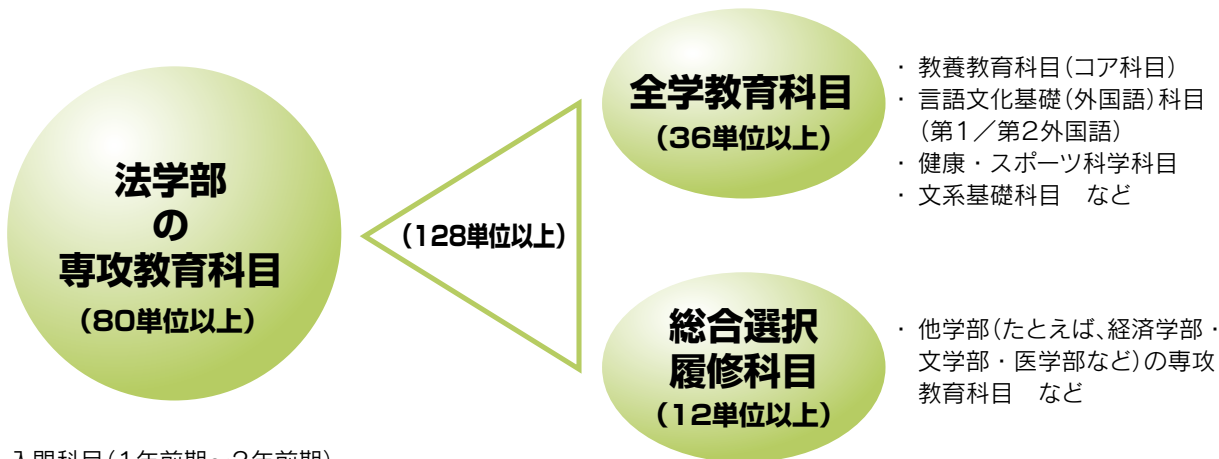
法学部ではこうした法と政治の働きを学問として、法学及び政治学として学びます。その学習はこれまでなじみのなかった世界、その概念と論理を学ぶことを意味します。それは新しい言語、その特有の語彙や文法を学ぶのに似ているといってもよいでしょう。とくに、法学の世界は専門的な用語と考え方に満ちています。その学習はときに無味乾燥なものに思えたり、場合によっては苦痛に感じられたりするものであるかもしれません。しかしそれらは私たちの社会生活の秩序に関わるソフトウェアを構成しているものであり、現実の社会生活と密接に結びついたものとして理解していくことが必要です。また、このソフトウェアはもちろん完璧なものではなく、いろいろと問題を抱えています。こうした問題を鋭敏に感知し、改善へ向けた批判的で創造的な思考も必要です。

九州大学はその教育憲章として「様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献する」という目標を掲げています。九州大学法学部はこれを踏まえて、「法学・政治学教育の実践を通じて、地域社会、日本社会、そして国際社会でリーダーシップを発揮する人材の養成」を目指しています。そのために、高い人間性と社会性の陶冶、一層の国際性の涵養、専門知識を自立的・主体的に学ぶ基盤的能力の養成、柔軟で批判的・創造的な思考力の育成を目標としています。こうした法学部教育を受けた学生の進路としては、法曹、国・地方公共団体の公務員、諸業種にわたる民間の企業・各種団体の役職員、国際機関やNGOの職員、大学や各種高等教育機関の研究者などが予定されています。九州大学法学部はこうした法学・政治学教育を希望する高い志をもった皆さんを歓迎します。



法学部カリキュラムのしくみ

三種類の科目群からなる総合教育



- ・ 入門科目 (1年前期～2年前期)
 - ・ 基盤科目
 - ・ 展開科目
- } (1年後期～)

九州大学法学部の授業科目には、勉学の中心となる法学部の専攻教育科目のほか、全学教育科目、総合選択履修科目があります。後2者は、九州大学が、文系・理系のあらゆる学問領域をカバーする総合大学としての機能を誇るところから、法学部学生の皆さんにも、この機能を十分に活用して、いわゆる教養教育にとどまらない学際的な学習を期待するものです。社会の高度化・複雑化が進行する今日、法と政治を学ぶ者にとって、外国語科目・情報処理科目等の履修、さらには、経済学・歴史学・哲学・生命科学・工学などの他の専門科目の履修が不可欠であることは、自明とさえいえるからです。これらの科目群は、九州大学全学の教員の協力により実施され、入学後最初の1年半は、主として「全学教育科目」等を伊都キャンパスで履修することになります。

「法学部の専攻教育科目」は、箱崎キャンパスにおいて、法学部の教員が担当する法学・政治学の専門科目群です。それぞれに学界等で中心的に活躍中の教授陣が、各自の研究活動を踏ま

え、長年の実績・知見からそれぞれに工夫を凝らした教育活動を実践します。九州大学法学部の擁する教授陣には、外国人教員のほか、企業・中央官庁等出身の教員、弁護士など、まさに多彩な顔ぶれが含まれ、日常的に、多様な教育活動が展開されていることも特筆に値します。

九州大学法学部の提供する「専攻教育科目」には、伝統的な法学・政治学に関する科目群のラインアップのみならず、他大学には類例のないユニークな科目も含まれています。たとえば、「紛争管理論」「政治動態分析」等、現代の法・政治現象を多角的に扱う応用・先端科目がその好例です。学生の皆さんの勉学意欲を一層かき立てるメニュー作りが心掛けられています。また、入学当初の1年前期から、毎週1日は(この日は「箱崎日」と呼ばれます)、入門科目(法学入門・政治学入門など)を配置しているほか、1年後期になると高年次に履修予定の授業科目を理解する上で不可欠の前提となる基本的科目(憲法Ⅰ・民法Ⅰ・刑法Ⅰ・政治学原論)を配置しています。



日本法制史(植田教授)



民事訴訟法(上田准教授)

5つのグループからなる法学部専攻教育科目

九州大学法学部の提供する専攻教育科目は、大きく以下の5つのグループにわけることができます。これらのグループからバランス良く、あるいは必要とあればどれかに重点を置いて学べるように、時間割の配置などで工夫がされています(なお、主な授業科目は2012年度のものであり、年度によって変更されることもあります)。

1.基礎法学

憲法、民法、刑法といった現行の法律を中心に学ぶ実定法学と異なり、基礎法学は、法の歴史・思想や外国の法律を含めて、より広い視点から法の様々な側面を考察する学問です。現行の法制度を学ぶうえで、こうした視点からの広く深い理解は不可欠で、九大法学部では基礎法学教育を重視しています。

(主な授業科目)

法理学、日本法制史、西洋法制史、東洋法制史、法思想史、紛争管理論、ローマ法、法社会学、法情報学、英米法、比較法、中国法など

2.公法・社会法学

公法学・社会法学の課題は、国家と市民に焦点をあてた「社会認識」を深めること、および「人権の尊重」や「公共性の実現」が法を通じていかにして可能かを探ることにあります。社会における公正・平等の実現や、市民の主体的参画を可能とする法システムを構想することを学びます。

(主な授業科目)

憲法、行政法、租税法、行政学、労働法、社会保障法など

(参照) <http://www.law.kyushu-u.ac.jp/>

2年次ゼミナール

法政基礎演習(関口教授)



法政基礎演習(南野准教授)

3.民刑事法学

交通事故、医療ミス、傷害・窃盗事件、不法侵入、名誉毀損、少年犯罪…。隣人との紛争、商品や土地の購入、借金、会社の設立…。さらには離婚や遺産相続などなど。このような私たちにとって「身近な」ことがらを法的に検討するのが民事法学や刑事法学です。

(主な授業科目)

民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、経済法、消費者法、少年法、刑事政策など

4.国際関係法学

現代において、国際関係の舞台に登場する様々な問題は、私たちの日常生活と密接につながっています。イラク戦争や欧州統合、コメ輸入問題など、日々のニュースなどでもしばしば登場する問題を、法的立場から分析し、学んでいくのが国際関係法学です。

(主な授業科目)

国際公法、国際経済法、国際私法、国際取引法、知的財産法など

5.政治学

私たちには、選挙をはじめ様々な場面で国や自治体、あるいは世界の進路について、市民として、あるいは政治家や公務員としてなど、多様な立場から「政策」の決定にかかわることが求められています。政治学は、これらの判断や活動の基盤をなすものの見方を学ぶものです。

(主な授業科目)

政治学、政治理論、政治動態分析、政治学史、政治史、国際政治学など

少人数ゼミナールの重視

九州大学法学部における教育手法の特色の一つに、大正13年の創立時以来、少人数教育の場としてゼミナール活動を重視してきたことが挙げられます。現在も各種のゼミナールを多数配置し、ことに、3年次・4年次の「法律演習」「政治演習」は、必修科目として位置づけられ、法学部の教員が各自特色のあるゼミナールを担当しています。ゼミナールという場における、教員と学生、学生相互間の活発な討議・研究は、人間的な連繫を深め、まさに主体的に学ぶことの意義を体得しうる絶好の機会といえます。加えて、ゼミナール単位でのスポーツ活動、休暇中の合宿、旅行等も盛んに実施されています。

1年次のゼミナール(コア・セミナー)も九州大学法学部に在籍する4年間(大学院に進学する人はさらに2年間以上の期間)に及ぶ、法学・政治学の専門教育の履修プロセス上の基礎をなすものとして位置づけられています。このゼミナールへの主体的な参画は、高校までの「学習」とは違う、大学における「学問」の醍醐味を学生の皆さんが具体的に体感する契機となることでしょう。さらには、学生の皆さんと世代感覚のあまり変わらない教員も担当する2年次のゼミナール(法政基礎演習)が開講されています。

法学部 1 年生

講義紹介 法学入門

南野 森 先生

法学部に入ったからといって、九大では、——東大や京大と同じですが——いきなりすぐに法学の授業が毎日のように始まるわけではありません。法学は「大人の学問」と言われることもあるように、きちんと理解するのはなかなか難しいところがあり、いきなり1年生の最初から法学にどっぷり浸かるよりは、最初の半年や1年、あるいは大学によってはそれ以上の期間の場合もありますが、言語学・論理学や歴史学、哲学や社会学など一般教養（と外国語）の勉学に費やした方が、後になって法学を深く勉強する際や、あるいは実際に社会に出てから法を使う際に有効だという考えからです。また、わざわざ総合大学（University）に入ったのに最初から最後まで専門の勉強ししかないというのは、考えようによってはもったいないともいえるでしょう。とはいえ、折角法学部に憧れて入ったにもかかわらず、全く法学の授業に出ることができないというのでは残念な気がするかもしれません。そこで九大法学部では、1年生の前期に、法学部生全員を対象とする講義科目「法学入門」を提供しています。

この講義では、1年生200人の全員が同時に入る大講義室（写真参照）で、担当教員が90分間、延々と一方的に話し続けます。このスタイルに慣れるまでの数回は、みなさんが高校で経験していた授業に比べれば約2倍の長さがあるし、周りに知らない学生が沢山いるし、先生は教室のずっと前の方でマイクで喋っているし、板書もプリントもないし、出席確認も宿題もない…と様々な違いに戸惑うだろうと思います。そして学生は、教員の一方的な講義を黙って聞き、考え、そしてノートを取るだけです。板書もプリントも無いなかで、集中して聞き、何が重要で何が重要でないかを即座に判断し、ノートにまとめていかなくてはならないわけですから、90分間の講義が終わると多くの学生はヘトヘトになります。しかし

こういう努力を続けることによって、他人の難しい（退屈な？）話を聞き、考え、まとめるという、将来どのような分野に進むことになっても知的な職業生活を送るためには必須とされる能力を身につけてはならないのです。法学部は昔から「漬しがきく」と言われ、実際さまざまな分野への進路が存在していますが、実はそれは、このような法学教育の（一見すると退屈そうな）スタイルが様々な分野で活躍できる「強い頭」を育ててきたからかもしれません。

法学の勉強は、一に読むこと、二に読むことです。そこで、教員が薦めるさまざまな本や論文を読み、考えること（さらに自分の考えたことを友人と議論すること）が法学部の勉強には不可欠です。そして法学というのは、当たり前のことですが、法律を学ぶ学問です。そしてその法律とは、社会を良くするための道具です。そのようなわけで、読書が好きで、現実の日本社会・国際社会・地域社会に生じる様々な問題や課題にも関心がある（＝日頃から新聞をきちんと読んでいるような）高校生は、法学部にとくに向いていると思います。退屈そうに見える講義でも、聞き続け、考え続け、そして家や図書館で読み続けると、あるとき突然面白くなってくるはずですよ。いかにも昔ながらの大学らしい「法学入門」の講義、どうぞお楽しみに！



期末試験の様子

講義紹介 政治学入門

岡崎 晴輝 先生

ご承知のように、現代日本政治は、明治維新や戦後改革に匹敵するほどの大改革の直中にあります。新聞やテレビなどで政局の混乱、制度の改正などが報じられない日はありません。現代日本政治の実態をつかまえるためには、そうした情報洪水に溺れることなく、現代日本政治が日本史上・世界史上どのような位置にあるのかを把握することが欠かせません。この授業では、国家統治（官治・集権）から市民自治（自治・分権）への構造転換の直中にあるのではないかと、との観点から現代日本政治の歴史的位置をつかまえようとしています。

しかし、そうした現代日本政治の歴史的位置だけでなく、日々刻々と変化する政治制度やその運用を一つひとつ丁寧に理解していく作業も欠かせません。授業では、根拠となる資料をできるだけ示しつつ、政治制度やその運用を具体的に解明することを心がけ

ています。また、たとえばマニフェストのように現物を手に取ってほしいときには、各党のマニフェストを回覧したりしています。

加えて、現代日本政治において論争的になっている事柄も採りあげるようにしています。たとえば「住民投票は是非か」という論点について、抽選された学生が自分の主張と論拠を文章化し、電子メールで担当教員に提出する。翌週の授業では、それらの主張・論拠を一つひとつ吟味していく試みもしています。斎藤喜博先生が主張したように、一人ひとりの意見を吟味しあうなかで、それぞれの意見を鍛えることができると同時に、謙虚さや連帯感といった徳性も身につけることができるのではないかと期待してのことです。

このように、法学部1年生の皆さんが政治（学）の世界に入りやすいように、様々な工夫をしています。私のウェブサイト（<http://www1.ocn.ne.jp/~aktiv/>）で配布資料を公開していますので、ご関心のある方はアクセスしてみてください。

新入生のみなさんは、初年度は伊都キャンパスで全学教育科目(いわゆる教養科目)を中心に学びます。1年次は高年次の法学・政治学専攻教育科目を学ぶ上での「知的基礎体力」を培う重要な期間ですから、文系・理系の壁・専攻を超えた幅広い科目群が準備されています。また、毎週金曜日は箱崎日といって、箱崎キャンパスで法学部の低年次専攻教育科目を学びます。1年次の箱崎日には、法学・政治学の「入門科目」、コアセミナー(少人数ゼミナール形式の授業)に加え、後学期からは憲法Ⅰ・民法Ⅰ・刑法Ⅰ・政治学原論など法学・政治学の「基盤科目」の授業も始まります。高校までの勉強とはひと味違う大学での学びのスタイルを身につけることが1年次の最大の目標です。

コアセミナー



直江 眞一 先生

私達のクラス(20人)は西洋法制史の直江眞一教授のもと、英国歴史法学の大家とされるP.G.ヴィノグラドフ(1854~1925)の著書『法における常識』を読み進めることを通し、法の基礎や本質、あるいはその目的や手段などを学ぶことを目的にしています。毎回の授業でのレジュメはその回の担当の学生が用意することになっており、その中のわからない語

句や著者の考え方などを直江教授に質問する形式をとっています。本の内容はやや難しく、分かりにくい所もあるのですが、それをそのままにはせず質問し、直江先生も1つ1つ丁寧に解説して下さるので、全員とても積極的に授業に参加できており、毎回大変ではありますが充実していてその分お互いに仲良くなっています。楽しくじっくり法の土台を固めたい方にはイチオシのクラスです!

法学部1年生の時間割

Aさんの例

		月	火	水	木	金
1	8:40 10:10	現代社会 現代史			経済学	
2	10:30 12:00	中国語		人文学入門	中国語	政治学入門
3	13:00 14:30		健康・スポーツ 科学演習	地球科学	英語	法学入門
4	14:50 16:20	社会学	英語			コアセミナー
5	16:40 18:10	法学		情報科学		

平均かやや多めのコマ数ですね。
時間割を決める基準は、興味関心に従って取るという人も、単位の取りやすさを考えるという人もいます。法学部の1年生は、教養科目の文系科目や理系科目を多めに取ることになるので、比較的、時間割の自由度が高いです。

法学部2年生

2年次前学期は1年次と同様、伊都キャンパスでの授業が中心ですが、2年次後学期からは、箱崎キャンパスで法学部専攻教育科目の履修が本格的に始まります。法学・政治学の「基盤科目」を柱に密度の高い授業が目白押しですから、それまでに大学生としての学修スタイルをしっかり身につけておかないと目を回すことにもなりかねません。とはいえ心配はご無用です。法学部のカリキュラムは、低年次から高年次に向けて「積み上げ型の履修プログラム(入門科目-基盤科目-展開科目)」を提供していますので、年次進行に沿って慌てず焦らず着実に学修を積み重ねれば、高年次の専門的でより深い学びへと歩を進めることができます。2年次の目標は専攻教育科目への確実な橋渡しであり、この目標に向けて法学部教員スタッフは熱意を持って取り組んでいます。

講義紹介 民法



七戸 克彦 先生

Q. なぜ法学を学ぶ必要があるのでしょうか?

裁判官や弁護士を目指す人でなくても、法律についての基礎的な知識は、日常生活において必要不可欠です。たとえば皆さんがバイクで人に怪我をさせてしまった場合、第1に、5年以下の懲役もしくは禁錮または100万円以下の罰金を課され、第2に、運転免許は取り上げられ、第3に、被害者に対する損害賠償をしなければなりません。これらは全部違う法律です。第1のものは刑法211条2項の自動車運転過失致死傷罪、第2のものは行政法である道路交通法、第3のものは民法709条の問題ですが、この程度の違いは、一般常識として知っておかなければならない事柄です。

Q. なぜ民法が必要なのでしょうか?

僕の専門は、そのうちの民法で、民法というのは、土地の境界や売買契約に関する争いであるとか、夫婦や親子関係、相続問題に関する紛争を処理するための法律ですが、たとえば相続の事例を挙げてみましょう。父・母・息子・娘の4大家族があったとします。この家庭で父が死亡した場合、母は1/2、息子と娘はそれぞれ1/4の割合で父の遺産

を相続します(民法900条1号)。このときに息子・娘が、お父さんの遺産を全部お母さんにあげるつもりで、相続の放棄(民法938条)をしたとしましょう。お母さん思いの子供たちですが、しかし、この判断は最悪です。というのも、この場合、遺産はすべてお母さんのものにはならず、もしおばあちゃん(亡父の直系尊属)が存命なら、遺産の1/3はおばあちゃんのものになってしまい(民法900条2号)、もしおばあちゃんがいなければ、父の兄弟姉妹(子供から見た場合には叔父・叔母)が1/4の相続分をもつからです(民法900条3号)。母と姑の仲が悪かったり、親戚付き合いがなかったりすると、お姑さんや叔父や叔母は自分の権利を主張してくるでしょう。子供がお母さんのために思ってしまった事柄が、民法を知らなかったために、お母さんにとって最悪の結果をもたらすのです。

Q. では、高校生に対するメッセージをお願いします。

高校時代の勉強を、将来役に立たないと思っている人がいるかもしれませんが、そんなことはありません。僕は、皆さんのお父さんより上の世代ですが、今でも『日本史用語集』や『世界史用語集』を復習しています。英語の能力に関しても、実は大学入試の頃がピークで、それを維持することができたなら、社会に出る際にも圧倒的に有利です。高校の勉強をしっかりとやっておけば、法学に関する専門的知識もすぐに覚えられます。皆さんの入学を心待ちにしています。

講義紹介 行政法



村上 裕章 先生

Q. まず、「行政法」とはどのような科目ですか。

— 立法・行政・司法の三権分立は知っていますね。そのうちまさに「行政」を司る法のことを行政法と言います。とは言っても、民法や刑法のように、実際にそういう名前の法律が存在しているのではなく、行政を司るいくつかの法律をまとめて「行政法」と呼んでいます。

Q. なぜ行政法が必要なのでしょうか。

— 従来、人と人の争いは民事・刑事事件として解決するのが普通でした。しかし、複雑多様化した現代社会では、トラブルを未然に防ぐために行政による事前の規制が重要になっています。他方で、それは国民の権利を制限することにもなるので、法律によるコントロールが必要になります。実際的には、法曹になるための試験科目としても大切です。行政法が司法試験の基本科目に加えられ、六法+1「七法」と呼ばれています。

Q. どのような講義になるのですか。

— 行政法の講義は「行政過程論」と「行政救済論」に分けることが普

通です。前者は、行政法的一般枠組みを論じていて、具体的には、行政法全体を貫く基本原理や行政の行為のあり方などについて学びます。後者は、行政の行為などによって権利侵害を被った人をどう救済するかについて学ぶものです。

Q. この講義を学ぶまでに学んでおくべき他の科目はありますか。

— まずは憲法です。というのも、行政法は抽象的に書いてある憲法の条文を具体化するものだからです。それから民法もですね。民法の一般的なルールの特例の形という側面が行政法にはあるので、その理解も不可欠だと思います。行政法は何か取っ付きにくいところがあるようで、途中で諦めてしまう人もいます。が、その面白さはある程度学んで初めてわかります。

Q. 大学に入る前にやってほしいことはありますか。

— 本を読む習慣はつけてほしいと思います。法学部では本を多く読みますから。それから新聞も同様です。行政法で学ぶことは身近な事件に実はよく現れています。そして、外国語(特に英語)はやっておくといいですね。

Q. 受験生に一言。

— 大学に入学することはゴールではありません。自分の未来をどう切り開くかが大事なことです。そのために九大を是非利用してください。

法政基礎演習

武内 謙治 先生

「刑事法の基礎」という講義題目で活動を行なっている武内ゼミです。私たちは刑法、刑事訴訟法、刑事政策に関する重要問題をテーマとして議論を行っています。例えば、今年度の武内ゼミでは次のようなテーマを扱いました。

- 保安処分立法の是非
- 少年法の厳罰化傾向について
- 危険運転致死傷罪の是非
- 薬物犯罪に関するおとり捜査の是非
- 死刑基準の具体化について
- 死刑の刑事政策的効果の有無

毎時間のテーマについて各自で予習し、その授業の後は復習を行う、という流れで学習を行っています。予習も復習も、それぞれプリントにまとめ提出しなければならないので結構大変ですが、きちんとやればやるほど多くの知識を得ることが出来ます。また、毎回自分の主張とその理由を簡潔にまとめることが求められているので、自分の意見を記述する力をつけることができます。

実際のゼミの時間は、まず、最初の30分間で担当者がテーマに関するデータ等を報告し、その後みんなで議論を行う、という形で進めています。少人数ならではの活発な議論がゼミの魅力の1つです。普段の講義形式の授業では同級生の意見を聞く機会は殆ど無いため、いろいろな意見が聞けるゼミの議論はとても興味深いです。

また、このようなゼミ全体での議論の他に、グループに分かれ、それぞれテーマを決めて研究を行う「グループ研究」の活動も行っています。



このように書くことも難しいことを行っているようで、「自分には無理だ…」と思ってしまう方もいるかも知れませんが、そんなことはありません。1番初めの授業はガイダンスであり、先生が丁寧に学習の進め方を教えてくださるので安心です。

今回は刑事法をテーマにしている武内ゼミの紹介でしたが、法政基礎演習では他にも憲法、民法、政治学、デモクラシーや中国政治をテーマにしたゼミまで、幅広い分野のゼミが開講されているので、きっと自分の興味に合ったゼミが見つかると思います。

法学部2年生の時間割

後学期 Y君の例

		月	火	水	木	金
1	8:40 10:10					
2	10:30 12:00	刑法Ⅱ	政治動態分析Ⅰ・基礎	行政法Ⅰ		
3	13:00 14:30	行政法Ⅰ	英語Ⅳ	入門フランス語	政治動態分析Ⅰ・基礎	憲法Ⅱ
4	14:50 16:20		憲法Ⅱ		刑法Ⅱ	民法Ⅱ
5	16:40 18:10	法文化学基礎	民法Ⅱ			

- 2年後学期からは多くの授業が週2回になります。
- 英語Ⅳの授業は基本的にすべて英語で!英語で聴く・話す力がついたかも…。
- 政治動態分析Ⅰ・基礎ではドイツを中心に大戦期のヨーロッパの政治史を概観。歴史好きにはたまらない!?

法学部3・4年生

3・4年次は専攻教育科目の履修をつうじて、学生各自が自分自身の問題関心に沿った学びを深める期間です。法学部教育の共通インフラとも言うべき「基盤科目」の履修をふまえて、より多種多様な「展開科目」群の中から各自のニーズに応じて自由に科目選択を行い、卒業後の進路を見据えた自前の学修計画を立てることができます。また、3年次から始まる高年次ゼミナールは、少人数クラスの濃密な議論をつうじて高度な専門性を育む法学部教育のコアであり、ゼミナール担当教員は活発で個性豊かなゼミナール運営に特に力を注いでいます。3・4年次の目標は、学生一人ひとりが自分なりの明確な目的意識をもって専門性を高め、大学での学びを実りあるものにする事です。法学部教員スタッフは、みなさんの目標達成に向けた学びを強力にサポートします。

講義紹介 東洋法制史



西 英昭 先生

Q. 東洋法制史という授業について簡単に教えてください。

— 法制史という学問は簡単に言うと、「法」の歴史ですね。今ある「法」ではなくて、過去の「法」、およびそれを成り立たせている社会の構造について勉強することになります。九大の法制史の授業は、ローマ法、西洋法制史、日本法制史、東洋法制史と4つあるんですね。それぞれの地域の過去の「法」を勉強することになります。で、東洋法制史は主に中国および周辺地域の昔の「法」を扱っています。もちろん、昔と言っても中国の歴史は長いですから、殷、周から現在までという形になります。授業で取り扱うのは明、清、近代中国のあたりを中心に扱います。

ちょっと難しいかもしれませんが法制史というのは、時代も国も違ってもそこに存在したある一つの「社会」、今現在の私達とは全く違う「社会」について、その「社会」を成り立たせていた様々な構造を追跡してゆく学問です。例えば土地を売り買いするときはどうしていたのか、家族の生活はどうなっていたのか、裁判はどうなっていたのか、

等々。さらにはその社会のあり方が今の中国にどういふうに影響しているのかということも考えます。全く異なる社会について考える、ということと、翻ってそれが今の社会にどのような意味を与えているのか、について考えるということが中心ですね。

Q. 大学生に向けて大学入学までや大学で学んでほしいことを教えてください。

— 特に何の準備もいらないと思います。準備をすればしたら、何でも吸収する積極性ですね。特に大学というところは自分から動かないと何も出てこない。これまでどおり上から与えられるという世界ではなく、自分で獲りに行くという世界なので、そういう貪欲さを身につけて大学に入ってくればそれで十分だと思います。

Q. 大学生に挑戦してほしいことなどありますか。

— 大学に入ったら海外旅行には是非一回行ってみてください。中国でしたら北京でも上海でもどこでもいいと思います。歴史が好きな人は故宮や長城に行ってみるもよし、とにかく人間を見るのが好きだということであれば、中国は何しろ13億人も人がいますから、街中を歩いてそれを見るだけでも楽しいと思います。

講義紹介 政治学史



木村 俊道 先生

Q. いきなりすみません。「政治」というとダークなイメージがあるのですが…

— 確かに権力闘争といった側面もありますが、私は「政治は可能性の技術である」という考え方が気に入っています。つまり、限られた選択肢の中から、どうやって可能性を見出していかうかということです。人間は天使ではないのでいい面も悪い面もあるけれど、可能性の技術によって困難な状況を乗り越え、時には敵をも味方にするような、そういったポジティブな側面が政治にはあるのではないのでしょうか。

Q. 「政治学史」とはどのような科目なのでしょう。

— 「政治」科目という大きなカテゴリーの中には、たとえば現代日本政治や政治史、国際政治、政治理論などを対象とする分野もありますが、政治学史は主に思想を取り扱う分野です。政治思想史というより分かりやすいでしょうか。高校までの教科でいうところの倫理を政治と歴史の観点からより深く理解する学問といえるかもしれません。

Q. 実際の授業ではどのようなことを扱いますか。

— 私が担当している「政治学史」は、ギリシア・ローマの時代から現代にいたる、政治をめぐる知的営みの歴史を学ぶという壮大な学問です。古代から近現代までまんべんなく扱うことができれば一番いいのですが、授業ではついつい深追いしてしまい、そのために駆け足になる部分が出てきてしまうことも。何しろテーマのスケールが壮大ですから、授業をする側としては悩ましいところです。

Q. 他の政治系科目と比べて、政治学史の特色を一つ教えてください。

— 政治系の学問の中でも特に政治学史というのは、プラトンやアリストテレスをはじめ、過去の思想家たち、また彼らが与えた影響を分析する学問ですから、遠い世界の人たちを理解するという意味で広い意味での他者の理解に通ずるところがあると思います。

Q. なぜ政治学史を学ぶことが必要なのでしょう。

— よく、「自分の背中には自分には見えない」と言われることがありますが、それと同じで、私たちが現代に生きているからと言って現代が見えているわけではありません。現代を分析するためには、どういう知的な基盤の上に現代が成り立っているのかを示す鏡が必要なのですが、それがまさに過去の歴史というわけです。つまり現代を理解し、可能性を切り開くためのひとつの「教養」になるわけです。

Q. 受験生に向けてのコメント。

— 自分が政治学史という分野に興味を持ったのは高校時代の一冊の新書との出会いがきっかけでした。受験勉強に追われながら自分の時間を確保するというのはなかなか困難かもしれませんが、ぜひ良い本と出会ってください。ふと手に取った本が自分の興味を引き出してくれることもあるのです。また、自分がこの分野でやっていこうと決意した大きな理由に師匠との出会いがあります。本との出会いもそうですが、人との出会いというものは自分の人生に大きく影響を与えてくれるかもしれません。大学に合格すると、自分の自由な時間が一気に増えると思います。自分の潜在能力を埋もれさせないためにも、自由な時間を楽しみながらも、実りある学生生活を送ってください。

社会保障法 笠木ゼミ



「社会保障」という言葉はよく聞きますが、実際にはテレビで見聞きするよりもっと複雑な問題がたくさんあります。私たちの暮らしに身近な問題を学問として深く追求することはとても勉強になるし、おもしろいです。毎週、担当者の発表についてゼミ生全員で意見を出しあって、熱い議論が繰り広げられています。

私たちのゼミの特徴は、最初に自分で設定したテーマについて一年をかけて勉強し続けることです。自分の問題意識を基に設定したテーマなので生徒自身が主体的に取り組むことができますし、通年で同じことを勉強し続けることによって理解が深まり、自分の意見や考えをしっかりと持つことができるようになります。

また、ゼミ終わりにご飯を食べに行ったり、ゼミ旅行や他ゼミとの交流など、教室での議論のほかにも、活動内容はもりだくさんです。オンとオフの切り替えがしっかりしているので、勉強するときは全力で勉強しますが、楽しむときも思いきり楽しんでいます。このおかげでゼミ生の仲がとても良いことも、私達のゼミの魅力だと思います。

知的財産法 寺本・小島ゼミ

「知的財産」とは、私たちの生活に身近な、映画・ゲーム・音楽、さらにはブランドやデザイン、技術的アイデアといった、人の想像力から生み出される無形の財産です。

資源に乏しい日本が世界有数の経済大国となる過程を支えてきたのは、家電や自動車など、モノ作りの力であるといえます。しかし近年、中国やインドなどの国々が台頭し、それらの国々との競争が激化しています。そんな時代だからこそ、競争力の源泉となりうる知的財産に対して期待が高まり、また法改正や訴訟といった知的財産に関する話題も頻繁に取り上げられています。

知的財産法の問題に取り組むためには、特許法や著作権法など、法律学に精通していればい…というわけではありません。法律学だけでなく、歴史的背景や科学分野の専門知識といった幅広い知識、物事を多面的な方向から捉える能力、それらを統合して結論を導き出す能力が必要であり、それこそが知的財産法の魅力であるといえます。

例えば、最近話題になっている電子書籍。この問題について取り組むには、電子書籍の仕組みと役割、現在における電子書籍の普及率、出版社や著者などの利害関係者、価格の設定方法、公共図書館の果たすべき役割…というように幅広い知識を集め、一つの見方に捉われずに様々な視点から考えなければなりません。また、知的財産法は他の法領域に比べて私たちの生活に身近であるとともに、ビジネスに深く関連した分野であることも特徴の一つといえるでしょう。

そのため、本ゼミでは法的思考能力を養うことに加え、自分の力で調査および報告に必要な文献資料を見つけ出し(情報収集能力)、それらを適切に理解した上で報告内容を簡潔にまとめ(内容文書構成能力)、限られた時間内において、人前で分かりやすく発表する力(プレゼンテーション能力)を培うことによって、就職および就職後における学生の戦力を向上させることをも目的とし、日々活動に取り組んでいます。

【活動内容】

知的財産法の現代的な論点に関する重要な判例などについて、少人数のグループで検討、報告をした後に寺本・小島両先生によるフィードバック、参加者全体による質問、討議を行います。

フィードバックでは法的な内容だけでなく、言葉の使い方や文章の構成、プレゼンテーションの仕方についても厳しい指摘がなされ、ゼミ生一同、日々強い刺激を受けています。

(具体例)「医療関連行為にどこまで特許権が認められるべきか」(「外科手術を再生可能に光学的に表示するための方法及び装置」事件)、メモリーカードの使用がゲームソフトの著作権者の有する同一性保持権を侵



害するかどうか)、「ときめきメモリアル事件」,「GoogleやAmazonが絶版書も含め電子配信した場合、公立図書館は不要となるか」、など

【課外活動】

普段のゼミ活動の他に、ゼミ後の食事やコンパ、ゼミ旅行も定期的で開催されています。知財ゼミのコンパは「グルメ主義」。学生にはなかなか手の出せない、ちょっと高めのおしゃれでおいしいお店で先生を交えて楽しく食事をします。ゼミ旅行では日本国内の文化遺産巡り。昨年は「太陽の塔」で有名な万博記念公園に行き、国立民族学博物館や大阪日本民芸館などを訪れ、充実した2泊3日の旅行となりました。

このような課外活動は学生同士、そして先生との仲を深める大変良い機会です。就活、将来、趣味、サークル、恋愛など、幅広い話題で普段のゼミ活動とは一味違った盛り上がりを見せます。

ゼミ生の進路は就職や進学など様々ですが、この厳しくもやりがいのある活動に取り組むことで知識と能力を身に付け、それぞれの道で一流の人材となることを目標に、切磋琢磨しながら夢へと向かって日々邁進しています。

九大法学部ってどんなところ？

高校生の皆さんの疑問に現役法学部生がお答えします！

なぜ九大法学部を選んだのですか？ 特色は？



A. 私が九州大学法学部を志望した理由は、大学での4年間を通じて自分の可能性を最大限に広げることができると思ったからです。九州大学法学部では学科、専攻のような学問分野相互の垣根を越えて、誰もが法律学や政治学、社会学といった様々な分野から、自分の関心のあるテーマを自由に選択して学ぶことができます。つまり、法学部はあなたの潜在能力を最大限に引き出し、ありとあらゆる選択肢を提供してくれるのです。卒業された先輩方の進路が、研究者、教師、裁判官や弁護士などの法曹、国・地方公共団体の公務員、諸業種にわたる民間企業など多種多様なものになっていることから伺えます。確固たる将来像を胸に法学部を志望される方はもちろんですが、まだ

自分の将来の進路がはっきり決まっていなくても、法学部での学生生活が有意義なものになることは間違いありません。九州大学法学部での高レベルかつ柔軟な教育環境のもと、自分の可能性を大きく羽ばたかせてみませんか。

自分の将来の進路がはっきり決まっていなくても、法学部での学生生活が有意義なものになることは間違いありません。九州大学法学部での高レベルかつ柔軟な教育環境のもと、自分の可能性を大きく羽ばたかせてみませんか。

先輩からひとこと



- ・何だかんだで旧帝大の1つであることは誇りです！
- ・ゼミが各学年にあるのは他ではあまりないと思います。自分の頭で考えて発言することにチャレンジしてください！
- ・九州から、全国から、色んな学生がやってきて楽しいです。
- ・先生方との距離が近いです！気軽に質問できたり、一緒にコンパで盛り上がりつつあります！
- ・色々な進路に先輩がいるので、その方々から貴重なお話が聴けることも。

大学生の一日ってどんな感じですか？(2年生の場合)

【一日の流れ】

08:30~10:00	起床。朝食や学校へ行く準備、家事
10:00~10:30	通学
10:30~12:00	2限：現代史／現代社会
12:00~13:00	昼食
13:00~14:30	3限：物理学Ⅰ
14:30~16:00	自由時間
16:00~18:10	5限：情報科学Ⅰ
18:10~19:30	サークル
19:30~20:30	晩御飯@学食
20:30~21:00	帰宅
21:00~22:00	家事・風呂
22:00~23:00	予習
23:00~24:00	娯楽



A. 【2限目：現代史／現代社会】

1年生～2年生前期は専門の勉強の基礎となる教養科目(全学教育)を中心に勉強します。英語や第二外国語(ドイツ語フランス語中国語etc…)の他にも自ら興味のある分野を選択して学ぶことができます！

今日の授業は中国の近代政治史…文化大革命など高校の授

業で聞いたことのある内容について、先生が自分の留学生時代のエピソードを交えながら説明をしていきます！90分授業…予習してくればよかった(汗)

【3限：物理学Ⅰ】

文系の学生でも理系の授業を選択できます！

この授業では高校では勉強しなかった物理学にチャレンジしています！この授業では音や力が伝わる仕組みを図や動画で見て、それがどう数式で表されているのかを考えます。時々難しく理解できない時もありますが、分かった時の感動はひとしおです！

【通学】

交通費節約のために九大学研都市の自宅からキャンパスまで自転車を使います！こういう地道な節約が仕送り直前の生活を左右するんです！(笑)

伊都キャンパスまでは自転車専用道が整備されているので自転車でも快適です！貴重な運動の時間でもありますよ。

ちなみに雨の日はバスを使います！片道100円で乗れるので重宝します。

【帰宅後】

帰ってきてからは勉強の時間を取っています。今日の勉強内容は第二外国語で履修している中国語について。中国語のCDを聞きながら、発音を真似たり意味を考えたり。英語とは違う言葉だから難しい部分はあるけど、楽しくもある勉強です。

大学生の一日ってどんな感じですか?(3年生の場合)



A. 2年生後期から専門の授業が本格的にスタートしますが3年生からは演習、いわゆるゼミが始まります。水曜以外の5限目に組まれているゼミの中から最大2つを選択することができます。学部のシラバスを見ていただければわかるとおり、数多くのゼミ

が開講されています。2年生後期になると2週間にわたってゼミ見学が行われるため、そこでゼミの雰囲気などを味わい、自分の興味あるゼミを選択することができます。また、将来公務員を志望する人の中には、4月から開講される公務員講座を受講する人も多く、5限終了後も7限まで学校に残ります。

以上は通常の平日の学校がある時間帯の紹介ですが、放課後や休日、3年生は何をしているのでしょうか。ここは人それぞれですが、一般的には以下のような場合分けができます。テスト前かそうでないか/バイトをしているかしていないか/部活・サークルをしているか/現在目指している資格試験があるかどうか/彼氏彼女がいるかいないか/ゼミでの報告が直前か否か/学校に来る人がそうでない人か。

僕の場合は平日は全くバイトを入れず、土日祝日にシフトを組んでいるので、学校の図書館に残って土日にできない分の課題をして、それが終わったら友達とご飯を食べに行ったりしています。土日はホントに一日がバイトに費やされます。(テスト前は事前に報告しておけばシフトを入れないで済みます。まずは勉強)

前期も後期も始まったと思ったらすぐにテストがやってきますので、テスト前にあわてないようにしましょう。ぜひ大学生生活をエンジョイしてください。

法学部3年生の時間割 S君の例

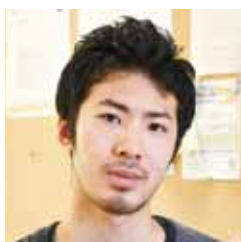
		月	火	水	木	金
1	8:40 10:10					
2	10:30 12:00	民事訴訟法	民法Ⅲ	刑事訴訟法		労働法
3	13:00 14:30	刑事訴訟法	行政法Ⅱ		商法Ⅰ	民法Ⅲ
4	14:50 16:20	商法Ⅰ	労働法		民事訴訟法	行政法Ⅱ
5	16:40 18:10	ゼミ(租税法)				



先輩からひとこと

- 日頃の勉強が大事!!もちろんテスト前の勉強も欠かせません。
- 自分で問題を見つけ、しっかり考えていくことが求められていると思います。
- 高校の時の勉強は「答えがある勉強」ですが、大学では「答えのない勉強」をします。
- 先生が話したことをメモする癖をつけましょう。

どんな部活やサークルがあるのですか?



A. 部活では体育会系は七大戦(北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学)が参加する学生自身が運営する最大規模の大会)等を目指し、文化系は各種発表会や演奏会を目指してしっかり練習をしていきます。

サークルは自由に楽しく参加することを目的としているところが多いようです。目的や種類も様々なサークルがあるので自分にあったところを探すことができるのも利点です。

それぞれ1つずつピックアップしてみます。

男子ラクロス部

練習は週に2~4日で、自分達で考えてお互いに切磋琢磨しながら活動しています。

ラクロスは大学から始めた人ばかりだからスタートラインが皆一緒な点や、すぐに他学部・他大学・他地区の人とも友達になれる点などが魅力です。

KUIFA(九州大学国際親善会)

留学生と日本人の交流を図る、国際交流サークルです!

「国際交流」ってなんとなく難しそう...そう思っただけではありませんか? 私達のサークルではお菓子をつまみつつ留学生とお喋りしたり、スポーツをして遊んだりしています。「違う国の誰か」ではなく「同じ世代の学生」として留学生とふれあい、友達になる

ことから始めよう!というのが私達の考える「国際交流」です。楽しそうでしょ? もちろん留学生と触れ合う中で文化や言語の違い、考え方の違いを感じることもあります。そういったことを自らの肌で感じ、理解しようとする機会を得られることも私達のサークルの強みです!

まずは楽しみながら、九大から世界を見て見ませんか?



男子ラクロス部

KUIFA(九州大学国際親善会)



先輩からひとこと

- 大学が公認しているサークルだけでも100を超えます。学生が自主的に作ったサークルも加えると数えきれません!! 自分にあったサークルが必ず見つかります!
- サッカーサークルだけで10団体以上あります!
- 学部・学年を超えた付き合いができるので、世界が広がります!
- サークルを掛け持ちする人も少なくありません。中には7つサークルを掛け持ちしている強者も。
- 入学式の前から学生をお世話してくれるサークルも!?

九大生はどんなアルバイトをしているのですか？



も多いようです。コンサートや野球の試合のスタッフ、コールセンター、受付、引越しなど、それぞれのアルバイトを通じて様々な経験をしています。

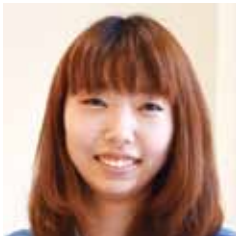
A. 短い時間でしっかり稼げる家庭教師や塾講師と、一人暮らしにうれしいまかないが付く飲食店が人気です。最近では、自分のスケジュールに合わせて働く日が決められる派遣制のアルバイトに登録する人も

先輩からひとこと



- 塾や家庭教師のアルバイトをしている人が多いです。時給も他のアルバイトよりはいいと思います。
- 派遣のバイトをしています。シフトの自由がききやすいのが魅力です！
- 夏休みだけがたっぷり短期のアルバイトをやるのもお勧めです！
- アルバイト先の先輩と遊びに行ったりします。他大学の人間関係も作れるのでお勧めです！
- アルバイトをしていましたが、週4,5回の出勤は大変で辞めました。学業が疎かになってはいけなくて…。

アパートはどの辺りに借りるのがいいでしょうか。



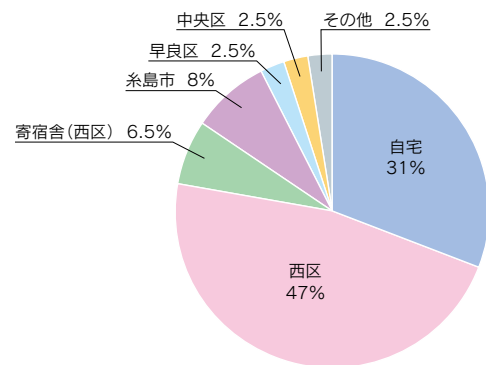
伊都キャンパスと箱崎キャンパスの中間地点である姪浜～西新に住む人は引っ越し人、引っ越さない人半々です。

伊都キャンパス最寄の九大学研都市～箱崎間は電車1本で移動できるのでそう不便ではないですが、多少時間がかかるので、朝が弱い人などは引っ越しを前提にそれぞれのキャンパスの近くに住むことをお勧めします。

寮は初めて家を出る人も安心して暮らせるし、寮生活をしてから一人暮らしを始めるというのもいいかもしれませんね。

A. 選択肢として、伊都キャンパス周辺、姪浜～西新、箱崎キャンパス周辺の大きく3つが挙げられます。伊都に家を決める人のほとんどは後々箱崎方面へ引っ越すつもりでいます。伊都キャンパスと箱崎キャン

2012年入学者居住地域



先輩からひとこと



- 1年から2年にかけて引っ越しする人が多いと思いますが、学校に行きたくなくなるような程よい場所を見つけて下さい!!
- 一人暮らしをすると家事をこなすのが大変かもしれません。親のありがたみがわかるかも。
- お部屋探しはお早めに!!

こんな問題が定期試験に出ます (年に2回、前学期末と後学期末に実施)

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 憲法(2年生後学期)
「人権」と「憲法上の権利」の異同・関係について論じなさい。 | <ul style="list-style-type: none"> • 政治理論入門(2年生後学期)
トクヴィルのデモクラシーに対する見方を、とくに、多数の専制という観念や、この観念を成り立たせている自由や宗教に対する態度と関連つけて、論じなさい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 商法(3・4年生後学期)
株主総会決議の取消し・無効・不存在について説明しなさい。 | <ul style="list-style-type: none"> • 政治学原論(1年生後学期)
「政治の本質とはなにか」について論じてください。ただし、その場合、マキャヴェッリ、シュミット、アーレントの議論を必ず参照してください。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 民法(2年生後学期)
「被害者側の過失」とは何かを説明しなさい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> • 刑法(2年生後学期)
「同時傷害の特例(刑法207条)」が抱える問題点について指摘せよ。 | |

どんな施設がありますか

A.1 講義室・演習室

現在、法学部の授業のために使用されている教室は、大小とりまぜて25室ですが、このうち演習(少人数形式授業)用の教室が13室あります。法学部は伝統的に演習を重視し、毎年3、4年生を対象に30クラス以上もの演習を開講していますが、こうしたことが可能なのもこれだけの演習室を確保しているからです。また視聴覚設備等の質的な面でも、学生諸君の授業面での多様なニーズに十分応えられる環境にあるといつていいでしょう。



大講義室

A.2 文系合同図書室

講義や演習のための学習を進めたい、あるいは自分が関心を持ったテーマについてもっと深めてみたい。そう思ったら、ぜひ文系合同図書室所蔵の図書資料を利用してください。図書室には、なんと30万冊以上という全国有数規模の法学・政治学関係専門の図書・雑誌が収蔵されていて、学生諸君の利用を待っています。学生なら誰でもこれらの図書を閲覧することができるばかりか、自分の探す図書を求めて、書庫の中に立ち入ることもできるのです。みなさんが必要とする専門書のほとんどはここで見つけることができるでしょう。



文系合同図書室

A.3 九州大学情報基盤研究開発センター

九州大学情報基盤研究開発センターには教育用計算機システムがあり、その利用資格はすべての学生に入学と同時に与えられ、各キャンパスにある端末室で利用できます。全学共通教育では情報処理科目が設けられています。また各キャンパスに情報サロンが設けられており、ネットワークを通じて就職情報などにアクセスすることができます。



情報基盤研究開発センター情報サロン

A.4 中央図書館

法学部生が主に利用する図書館としては、文系合同図書室のほかにも、中央図書館があります。中央図書館には文系合同図書室ほどの法学・政治学関係の蔵書はありませんが、学生の閲覧用スペースが広いなどの点ではまさっています。



中央図書館

A.5 生協文系書籍部

図書館で借りて読むばかりでは何だかもの足りないという人には、ここがお勧めです。店構えはけっして広いとはいえませんが、こと専門書や注目の新刊書に関しては、都心の大型書店にも引けを取らないだけの品揃えです。また、書籍コーナーのすぐ隣のスペースは学生用のラウンジとなっていて、いつも学生の歓談の音が絶えません。ここには学生用のコピー機器も設置されています。



生協文系書籍部

A.6 生協文系食堂

法学部生はもちろん、文系学部生の大半が昼食時に利用する食堂です。何と言っても、近くて便利で安いのが魅力。

メニューも結構豊富です。ピーク時には混雑しますが、少し時間をずらせば、ゆったりと快適な環境で食事を楽しめます。



生協文系食堂

A.7 法学部学生情報サロン

法学部生専用の情報サロンが開設されています

学生同士が交流する場所を提供するため、法学部生のための「学生情報サロン」が2005年10月に完成しました。工学部建築科の学生の設計による斬新なデザインはひときわ目を引きまします。内部は、パソコン室と談話室をつなぎ、パソコン10台とプリンター1台、法学部生に必要な基本図書・各種辞書類が約700冊のほか、新聞・法律雑誌・総合雑誌・英語雑誌を常備し、先輩たちのゼミ論集も備えてあります。パソコンでは豊富な法律データベースで判例・文献を調べ、基本図書を駆使してゼミの準備などに活用できます。開設以来、連日法学部生で一杯です。



学生情報サロン

伊都キャンパスについて

九州大学に入学してきた新入生は、一年半の間、福岡市西区の伊都キャンパスで学生生活を送ることになります(ただし、週に一度は「専攻日」として、箱崎キャンパスで学習します)。伊都キャンパスは郊外の新キャンパスで、まだ発展途上・成長中のキャンパスです。現在、箱崎キャンパスから伊都キャンパスへの移転が進んでおり、法学部は平成29年度以降に移転の予定です。



A.8 生協食堂(ビッグさんど)

低年次教育が行われるセンターゾーンには、伊都キャンパス最大の学生食堂があります。昼食時以外の時間帯には、広いテーブルを利用して自習したり談笑している学生の姿も多く見られます。パン屋やテイクアウトコーナーもあり、利用する学生は多いです。

また、近くの建物には、お洒落なオープンカフェテリア「Qasis」もあります。明るく開放的な雰囲気、メニューも豊富です。(定食からエスニック料理まで！)



生協食堂メインダイニング

A.9 自習スペース おうめい 嚶鳴天空広場(Q-Commons)

大学に入って意外に困るのが、実は大学内での自習スペースの確保です。多くの学生は、講義室・サロン・食堂や図書館などに自習場所を求めて日々放浪(!)しています。

その点、伊都キャンパスでは、センター2号館の4階に、広々とした自習スペースが設けられています。10台余りのパソコンと、多くの自習机、そして最新図書を揃えた書架が並んでいます。ここでは一日中、談笑したり、自習をしたり、ゼミの準備に追われる学生の姿が絶えません。



嚶鳴天空広場

A.10 伊都図書館

大学にとっての中心的設備の一つは、なんといっても知の貯蔵庫(アーカイブ)である図書館です。伊都図書館は最新の設備を備えた、立派な総合図書館になっています。

広い自習スペースが確保されていますので、静かな環境で自習をしたい人、読書を楽しみたい人にはぴったりの環境になっています。他にも、約70台のパソコン設備や、軽食をとれるカフェ「Libca」、雑談可能スペースがあります。



伊都図書館

A.11 スポーツ施設

新しいキャンパスはスポーツ施設も充実しています。

7面のテニスコート(オムニ)に加え、全面人工芝・ナイター設備完備の多目的グラウンド、武道場・トレーニングルームのある総合体育館があります。また、すぐ近くにサークル棟もあり、部室やサークルの活動拠点として利用されています。

センターゾーンからは離れていますが、陸上競技用複合施設、弓道場、テニスコート(クレー)もあります。



伊都運動施設

A.12 ドミトリー

ドミトリーとは、九大が提供している学生寄宿舍です。伊都キャンパスの敷地内にあり、主に一年生が入居します。

〇いいところ

- 構内に談話室があり、同じフロアの学生と交流することができます。他にも交流会や運動会が行われるので、ドミトリーを出てからも続く友達を作ることができます！
- 伊都キャンパスの敷地内にあるので、あまり遅刻の心配をする必要がありません！
- 寮生サポーターという先輩がいろんな相談に乗ってくれます！



ドミトリーⅡ 外観

×わるいところ

- 買い出しが面倒です。伊都キャンパス周辺にはあまり日用品や食品を買えるようなスーパーがありません。

詳しくは、九州大学のHPや資料で調べて下さい！

九州大学 <http://www.kyushu-u.ac.jp/>



ドミトリーⅡ 中庭



A.13 九大祭

九大祭とは、九大学生が主催・運営するお祭りです。毎年11月に伊都キャンパスで開催されます。サークルやクラスでテント企画を行ったり、教室で作品や活動の展示・発表を行ったりします。テントでは焼き鳥や焼きそば、揚げアイスなどの食べものが販売されます。教室では主に文化系サークルが普段の活動の成果を展示・紹介しています。他にも、外のステージではお笑いや芸人、軽音系サークルのライブが行われたりもします。九大祭のHPもみてみましょう！

九大祭 <http://www.kyudaisai.jp/>



九大祭の様子



九大でともに 学び考えよう

九州大学法学部は、学界の第一線で活躍する数多くの優れたスタッフを擁しています。法と政治に関する諸問題について、学問に対する高い志をもった学生諸君とともに議論し考察を深める機会をもつことができればと思います。

1.専攻 2.おすすめの本 3.高校生へのメッセージ



赤坂 幸一 AKASAKA KOICHI

1. 憲法
2. 山室信一『法制官僚の時代』
3. 活気にあふれるこの九州大学で、大きく羽ばたいて頂けることを願っています。



赤松 秀岳 AKAMATSU HIDETAKE

1. 民法・ドイツ民法の歴史
2. 大久保泰甫『日本近代法の父 ポワソナド』(岩波新書,1977)
3. 法律は、無味乾燥な暗記だけの学問ではありません。法律を文化と歴史の中で眺めてみると、こんなに面白い学問はありません。



荒 達也 ARA TATSUYA

1. 商法
2. 刈谷剛彦『いまこの国で大人になるということ』(紀伊國屋書店)
3. Art is long, life is short.



五十君(安武)麻里子 IGIMI YASUTAKE MARIKO

1. ローマ法
2. 富谷室『韓非子:不信と打算の現実主義』(中公新書,2003)
3. 『韓非子:不信と打算の現実主義』を読み、BC3世紀中頃の「法」イメージは過去のものか、近代日本が選択したヨーロッパ法は社会にあったものだったか、などと思いを巡らせてみてください。



出水 薫 IZUMI KAORU

1. 政治学
2. 小熊英二『日本という国』(理論社)
3. 大学に入る前に世界史と日本史とアルバイトをやってください。



五十川直行 ISOGAWA NAOYUKI

1. 民法
2. 穂積陳重『法窓夜話』
3. "Today is the first day of the rest of your life."



井上 宜裕 INOUE TAKAHIRO

1. 刑法
2. ウィリアム・バウンドストーン『パラドックス大全』
3. 抱いた疑問はそのままにせず、徹底的に考えてみましょう。法的思考を身につけると、新たな発見があるかもしれません。



入江 秀晃 IRIE HIDEAKI

1. 紛争管理論、法社会学
2. シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』(ちくま学芸文庫)
3. スマートに要領よく立ち回ろうとせず、自分が大事だと感じたことに体ごとぶつかる意識を大切にして欲しいと考えています。



上田 純子 UEDA JUNKO

1. 商法
2. 佐藤信『60年代のリアル』(ミネルヴァ書房,2011)
3. ファイト!



上田 竹志 UEDA TAKESHI

1. 民事訴訟法
2. アルペール・カミュ『シーシュポスの神話』
3. ともに学びましょう。



植田 信廣 UEDA NOBUHIRO

1. 日本法制史
2. 小熊英二『(民主)と(愛国)』(新曜社,2002)
3. 「学びて思わざればすなわちくらし。思いて学ばざればすなわち危うし。」(『論語』)



江口 厚仁 EGUCHI ATSUHITO

1. 法社会学
2. いしいひさち『現代思想の遭難者たち』(講談社,2002)
3. 本書に限らず、いしい作品を読んでどこまで笑えるかが、あなたの知的基礎体力測定のパロメーターになります。



遠藤 歩 ENDO AYUMU

1. 比較法
2. 秋山賢三『裁判官はなぜ誤るのか』(岩波新書,2002)
3. 疑い得ないものは何もありません。自分の頭で良く考え、疑問を持ちながら本を読んでください。



大賀 哲 OGA TORU

1. 国際政治学
2. カズオ・インシグロ『日の名残り』
3. ざりげなく「政治」の教訓が刻まれています。



大河原 伸夫 OKAWARA NOBUO

1. 政治理論
2. エーデルマン『政治の象徴作用』
3. 社会や政治は複雑で分かりにくいところがありますが、それだけに本をたくさん読み、まわりの人と議論し、自分の考えを深めて下さい。



岡崎 晴輝 OKAZAKI SEIKI

1. 政治理論・比較政治学
2. 渡部昇一『知的生活の方法』(講談社現代新書)
3. 『学んだことの証しは、ただ一つで、何かがわかることである。』(林竹二)



小川 玲子 OGAWA REIKO

1. 移民研究、文化人類学・社会学
2. ベネディクト・アンダーソン『ヤシガラ検の外へ』(NTT出版)
3. 良く学び、良く遊んで、世界中に友人を作りましょう。



笠木 映里 KASAGI ERI

1. 社会保障法
2. マリオ・バルガス＝リョサ 田村さと子(訳)『楽園への道』(河出書房新社)
3. 自分を信じて、大きな夢を追いかけましょう!



笠原 武朗 KASAHARA TAKEAKI

1. 商法
2. サイモン・シン、青木薫(訳)『フェルマーの最終定理』(新潮社)
3. お待ちしております。



木佐 茂男 KISA SHIGEO

1. 行政法、司法制度
2. 川喜田二郎『鳥糞の国：秘境ヒマラヤ探検記』(講談社学術文庫)
3. 受験勉強のしすぎなのか、学校や親族が甘やかしているのか、同世代の外国の学生に比べて一般に幼い感じがします。ほんとうの勉強・学習のための基礎知識の充実を望みます。



木村 俊道 KIMURA TOSHIMICHI

1. 政治学史
2. 坂口安吾『墮落論』
3. 『本物』を目指してください。



熊野 直樹 KUMANO NAOKI

1. 政治史
2. 鶴見良行『バナナと日本人』(岩波新書)
3. 今の感性、正義感、そして疑問を忘れず、大事にしてください。



小池 泰 KOIKE YASUSHI

1. 民法
2. 二木雄策『交通死』(岩波新書)
3. 教育は未来への投資です。元本保証はありません。



河野 俊行 KONO TOSHIYUKI

1. 国際私法
2. ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』(内田義彦セレクション1)(藤原書店)
3. 日本を外から眺めてみよう。



小島 立 KOJIMA RYU

1. 知的財産法、文化政策と法
2. 小関智弘『ものづくりに生きる』(岩波ジュニア新書, 1999)
3. 物事を批判的に観察し、その本質を見抜く「眼力」を、大学生活をととして身につけて下さい。



酒匂 一郎 SAKO ICHIRO

1. 法哲学・法思想史
2. カミュ『ペスト』
3. 悉有仏性



七戸 克彦 SHICHINOHE KATSUHIKO

1. 民法
2. 高校生におすすめの恋愛アニメ『秒速5センチメートル』(新海誠, 2007)
3. 美しい絵を見て美しい音楽を聴いて美しい心の友達をたくさん作ってください。



嶋田 暁文 SHIMADA AKIFUMI

1. 行政学
2. 内田義彦『生きること 学ぶこと』(内田義彦セレクション1)(藤原書店)
3. 単純な二分法や割り切った理解で済ませるのではなく、物事の二面性に留意しつつ、多様な観点で物事を見るようになってください。



スティーヴン・ヴァンアーツル STEVEN VAN UYTSEL

1. 国際競争法
2. ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』
3. 自分の夢を諦めないで下さい。



関口 正司 SEKIGUCHI MASASHI

1. 政治学史
2. トクヴィル『アメリカのデモクラシー』(岩波文庫)
3. 時の流れの中で残ってきた古典を読む。



武内 謙治 TAKEUCHI KENJI

1. 刑事政策、少年法
2. 寺田寅彦『柿の種』
3. 自分でも気づいていない才能の使い道を九大と一緒に考えましょう！



田中 孝男 TANAKA TAKAO

1. 行政法
2. 松下圭一『市民自治の憲法理論』(岩波新書)
3. 大学では、できる限り勉強してほしいと思います。



田中 教雄 TANAKA NORIO

1. 民法
2. 鈴木孝夫『日本語と外国語』(岩波書店)
3. 新しいことを知ること、解らないことが解ることが面白いと感じられるようになっていただきたいと思っています。



田淵 浩二 TABUCHI KOJI

1. 刑事訴訟法
2. ドストエフスキー『罪と罰』
3. 頭でっかちにならず、小説読んで感性豊かな大人になってください。



チャスラヴ・ペイヨヴィッチ CASLAV PEJOVIC

1. Maritime Law
2. ゲーテ『ファウスト』ドストエフスキー『罪と罰』法律を勉強する人に役立つ本です。
3. 自分のことを信じて！



鶴田 滋 TSURUTA SHIGERU

1. 民事訴訟法
2. 宇野重規『(私)時代のデモクラシー』(岩波新書)
3. 九大の自由な雰囲気の中で、自分で問題を発見し考える楽しさを知ってほしいと思います。



寺本 振透 TERAMOTO SHINTO

1. 知的財産法、社会ネットワークと法
2. ミシェル・ヌードセン=ケビン・ホクス、福本友美子(訳)『としょかんライオン』(岩波書店, 2007)
3. 普遍性のある法則を見つける力をつけてください。



土井 政和 DOI MASAKAZU

1. 刑事政策
2. 山本謙司『獄窓記』(ポプラ社)
3. 格差と排除が広がって行く社会の中でいかにして社会的包摂と共生を実現していくか、犯罪や非行の問題から考えてみよう。



豊崎 七絵 TOYOSAKI NANAE

1. 刑事訴訟法
2. ロジェ・マルタン・デュ・ガール『チボ一家の人々』(全13巻、白水Uブックス)
3. 青春を謳歌してください。



直江 眞一 NAOE SHINICHI

1. 西洋法制史
2. 深田久弥『日本百名山』(新潮文庫他)
3. いろいろなことに挑み、多くの経験を積んでください。



西 英昭 NISHI HIDEAKI

1. 中国法、台湾法、東洋法制史
2. 村上淳一『(法)の歴史』(東京大学出版会, 1997)
3. 常に「健全なる懐疑主義」に立って物事を見つめなおしてください。



西谷 祐子 NISHITANI YUKO

1. 国際私法
2. エドワード・サイード『オリエンタリズム』(平凡社, 1993)
3. 一期一会



西山 芳喜 NISHIYAMA YOSHIKI

1. 商法
2. 福沢諭吉『新訂福翁自伝』(岩波書店)
3. 幅広く勉強してください。法学、政治学、経済学、経営学、社会学、国際関係論etc.



野澤 充 NOZAWA MITSURU

1. 刑法
2. 内田義彦『読書と社会科学』(岩波新書) 河合幹雄『終身刑の死角』(洋泉社新書)
3. アクティブに学ぶことを心がけてください。



野田 進 NODA SUSUMU

1. 労働法
2. F. マコート『アンジェラの灰』(岩波文庫)
3. 大学では、時間をかけて真剣に、「自分探し」をやってね。



蓮見 二郎 HASUMI JIRO

1. 政治学
2. 道田泰司・宮元博章・秋月りす『クリティカル進化論』(北大路書房)
3. 大学時代にぜひ何か打ち込めるものを見つけてください。



韓 相熙 HAN SANG HEE

1. 国際関係法
2. アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』
3. これからの自分の人生にとって真の「幸せ」とはなにかを真剣に考えてみてください。



八谷まち子 HACHIYA MACHIKO

1. 国際政治、EU研究
2. 江國香織『思いわずらうことなく愉しく生きよ』(光文社文庫)
3. 世界を手元に引き寄せましょう!



原田 大樹 HARADA HIROKI

1. 行政法
2. 浅羽通明『大学で何を学ぶか』
3. 大学時代の4年間は、自分の世界を大きく広げるチャンスです。豊かな好奇心を携えて、九州大学法学部の門を叩いてください。



堀野 出 HORINO IZURU

1. 民事訴訟法
2. とくにありません、なんでもどうぞ。
3. 時間はたっぷりあります。工夫して、じっくり勉強しましょう。



マーク・フェニック MARK DALTON FENWICK

1. Criminology
2. Michael Ondjate, *The English Patient*.
3. The important thing is not to stop questioning.



松井 仁 MATSUI HITOSHI

1. 実務法学(弁護士)
2. 野田知佑『日本の川を旅する一カヌー単独行』(新潮文庫)
3. 大学時代は、人生で最も時間を自由に使うことのできる期間です。この機会を生かして、貪欲にいろいろな経験をしてください。



松生 光正 MATSUO MITSUMASA

1. 刑法
2. ウィトゲンシュタイン『哲学探究』
3. 迷ったときは古典に親しみましょう。必ず何か得るところがあります。



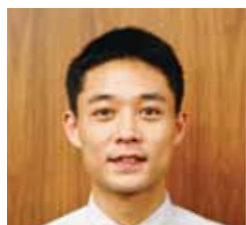
村上 裕章 MURAKAMI HIROAKI

1. 行政法
2. 北尾トロ『裁判長!ここは懲役4年でどうすか』(文春文庫)
3. 学ぶことの面白さを大学で再発見してください。



南野 森 MINAMINO SHIGERU

1. 憲法
2. 樋口陽一『比較のなかの日本国憲法』(岩波新書)
3. 大学は出会いの場。人と出会い、知と出会い、素敵な人生の出発点にしてください。



村西 良太 MURANISHI RYOTA

1. 憲法
2. 福田恆存『私の幸福論』(ちくま文庫)
3. できるだけ気持ちにゆとりをもって、幅広く勉強してください!



安西 文雄 YASUNISHI FUMIO

1. 憲法
2. 宮尾登美子『宮尾本 平家物語』
3. 学芸に遊ぶ心をもつ人であってほしいと願っています。



柳原 正治 YANAGIHARA MASAHARU

1. 国際法
2. 井上ひさし『吉里吉里人』(新潮文庫)
3. 大きな志を持ってください。10年後、20年後の自分をイメージして!



山下 昇 YAMASHITA NOBORU

1. 労働法
2. 読売新聞社会部編『ドキュメント裁判官』(中公新書, 2002)
3. 法学は社会の病気を治す学問です。社会のことに興味を持ち、社会のことを知ってください。新聞を読みましょう。



李 弘杓 LEE HONG PYO

1. 東アジア国際関係
2. 川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会, 2007)
3. 少年よ、大志を抱け!



渡辺 徹也 WATANABE TETSUYA

1. 公法(租税法)
2. 小川三夫『揃いの木を組む』(文春文庫)
3. 大学時代の友人は、その後の人生をととても豊かにしてくれます。

香山 高広 KAYAMA TAKAHIRO

1. 民法
2. 猫吉『両手のない猫、チビタ』(ソフトバンククリエイティブ)
3. 受験勉強、がんばってください。

「九州大学大学院法学府」の紹介

法学・政治学を極めたい皆さんへ——大学院進学のスズメ

九州大学には、法曹(弁護士、裁判官、検察官)を養成するための大学院法務学府(法科大学院)だけでなく、法学・政治学の研究者や高度専門職業人を養成するための大学院法学府が設置されています。法曹を目指す人は、大学卒業後、大学院法務学府に進学することになりますが、法学・政治学の研究者を志す人や、法学・政治学の専門知識を活かした職業に就くことを考えている人は、大学院法学府に進学することになります。

大学院法学府では、演習(ゼミナール)への参加や論文の執筆を通じて、法学・政治学のさらなる研鑽を積むことができます。長い伝統を誇る大学院法学府(旧・法学研究科)は、大学・研究所だけでなく、社会のいたるところで活躍する数多くの修了生を輩出しています。

2年間の修士課程には、後述する「国際コース」のほか、法学・政治学の高度な専門知識を習得し、社会で活躍する人材を養成する「専修コース」と、法学・政治学の研究者を養成する「研究者コース」があります。いずれのコースでも、少人数の演習に参加し、法学・政治学の専門書を読み、議論を闘わせることとなります。こうしたコースワークに加えて、2人の指導教員の助言を受けつつ、自分の選んだテーマに関する修士論文を書くこととなります。コースワークを終え、修士論文の審査に合格すると「修士(法学)」の学位が授与されます。

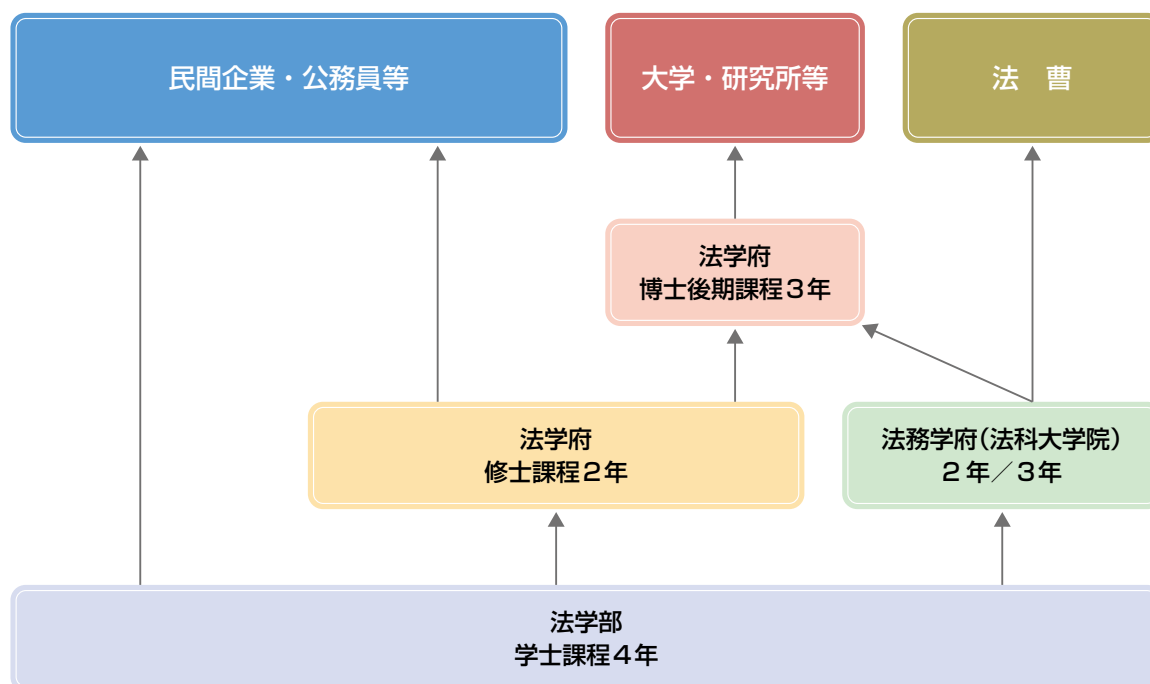
修士課程修了後、「専修コース」の学生は、民間企業や行政機関などで法学・政治学の専門知識を活かした仕事に就くことが想定されていますが、「研究者コース」の学生は、さらに3年間の博士後期課程に進学することになります。博士後期課程でも、

コースワークはありますが、中心になるのは、なんといっても博士論文の執筆です。膨大な文献を渉猟し、それら乗り越える新知見を示す博士論文を書くのです。博士論文の審査に合格すると、はれて「博士(法学)」の学位が授与されます。博士後期課程修了後は、大学・研究所などで教育・研究に従事することが想定されており、実際、数多くの修了生が全国各地の大学で教鞭をとっています。

なお、大学院法学府には、英語で授業を行い国際的に活躍する人材を養成する「国際コース」も設置されており、さまざまな国からの留学生が英語による授業を受けています。もちろん、日本人学生も「国際コース」に入学することが可能です。

皆さんのなかには、すでに大学院進学を考えている人もいるかもしれません。そうした人にとっては、大学院大学に入学することは、たいへん有益でしょう。すでに学部段階で、大学院進学を見越したプログラムが組まれているからです。とりわけ、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語で書かれた文献を読む授業の充実ぶりは、大学院大学ならではです。また、日本語だけでなくさまざまな言語で書かれた膨大な専門書(約400万冊)が所蔵されているため、いちはやく法学・政治学の専門的研究に取り組むことも可能です。さらに、多くの大学院生と接する機会が多いことも見逃せません。修士課程・博士後期課程で学んでいる先輩たちと日常的に接することは皆さんの知的刺激となり、学問への意欲をさらに高めてくれるでしょう。

法学・政治学を学ぼうとしている皆さん。ぜひ大学院進学まで視野に入れたうえで、学部を選択してみてください。



「九州大学法科大学院」の紹介

「人間に対する温かい眼差し」をもつ優れた法律家を育成するシステム 弁護士・裁判官・検察官になるために

現在、司法制度の抜本的な改革が、着実に進められておりあります。裁判員裁判の導入のほか、21世紀の日本を支える大きな司法制度を構築するために、弁護士、裁判官および検察官という法律家（法曹）の質を高めつつ、その数を飛躍的に増加させることを目的とした国家的プロジェクトが、進行しているのです。

2004年（平成16年）4月から、日本全国に、法科大学院という名の法曹養成のための大学院（日本版ロー・スクール）が開設され現在に至っています。

法科大学院は、大学院のレベルに設置され、2年間（法学既修者コース）ないし3年間（法学未修者コース）で、法曹としての基礎的な能力を涵養することを目的とする教育機関です（修了すれば「法務博士（専門職）」の学位が与えられます）。

日本全国で毎年養成されるべき法曹の具体的な数値目標として、原則として法科大学院の卒業生のみが受験できる司法試験の合格者数を増加させることにより、実働法曹人口を急速に拡大することが計画されています。

九州大学法学部は、これまで数多くの法曹を社会に送り出してきました。また、九州大学の大学院教育にも定評があり、長きにわたり、西南日本で唯一法学政治学系の博士課程をもった国立大学として、多数の法学研究者（大学教員等）を養成し、日本全国の国公立大学に送り込んできました。しかも、弁護士の職を得た人たちに対しても、大学院修士課程で、より高度の法と政治に関する専門教育を行ってきました。

そのような実績を基礎に、九州大学法科大学院は、新たな社会的な要請にも応えるために、西南日本では最も大きな規模の教育システムとしました。2004年4月の開校以後、毎年、100人程度（2010年からは80名で2013年からは70名の予

定）の法曹志願者を受け入れてきました。そして、現在までのところ、208名の修了生が司法試験に合格し、判事・検事・弁護士・司法修習生として次のステージを歩みはじめています。九州大学法科大学院は、複雑かつ多様化・国際化した社会状況のなかで、正義と公正に対する鋭い感受性を持ち、社会事象に対する幅広い観察力を基礎とする創造的な紛争解決能力を備えた法律実務家を養成したいと考えています。そこでは、日本全国における地域社会の人々の間に根ざし、しかも、他者に対する温かい眼差しで「社会生活上の医師」として活躍できる法律家だけでなく、語学力にも優れ、グローバルな視点から世界的に活躍し、法と正義の伝道者となり得る国際法曹を育成することをも視野に入れた教育課程を用意しています。そして、これらの目的を実現するため、学界・実務界の第一線で活躍している多数の教授・准教授を教員として配置しています。さらに、現在、福岡市が裁判所・検察庁・弁護士会館を誘地する計画の九大六本松跡地地区へ将来法科大学院のキャンパスを移転する構想も正式に動き出しました。

九州大学法学部に入学された皆さんは、法科大学院への進学をぜひ考えてみてください。九州大学法学部では、将来の法曹を目指す学生のニーズに的確に応えることができるような幅広い法と政治の基礎教育の場を用意しています。社会が複雑化し、かつ価値観が多様化した現代社会では、社会の様々な局面で、法律家の役割がますます重要になっています。九州大学法科大学院は、正義と公正に対する感受性が強く、しかも、公的な利益の保護や他者のために献身的に取り組むことができる意欲ある学生諸君の挑戦を待ち望んでいます。



国際交流と国際教育

グローバル化した世界において、日本の大学でも国際化がどんどん進行しています。九州大学は、G30(文部科学省が打ち出した日本における国際化拠点大学プロジェクト)のひとつに選ばれて、全学的に国際化をさらに進展させています。

その九州大学においても、**法学部の国際化**は他をリードするさまざまな取り組みを行っています。

交流協定と交換留学

九州大学法学部・法学研究院は、独自の交流協定を世界の大学・高等教育機関と結んでいます(表)。法学部の学生は、大学間協定校に加えて**法学部の交流協定校への交換留学**ができます。また、これらの協定校から法学部へ毎年、交換留学生がやってきて一緒に勉強し、大学生活を送っています。

(法学部)交換留学制度締結校

大学・学部	国名	締結時期
アムステルダム大学・法学部	オランダ	1995年
ティルブルグ大学法学部	オランダ	2009年
レイキャビク大学・法学部	アイスランド	2004年
モナシュ大学 法・人文(政治)	オーストラリア	1996年
ウェリントン・ヴィクトリア大学・法学部	ニュージーランド	1997年
ビクトリア大学・法学部	カナダ	1997年
コロンビア大学ロースクール	米国	1998年
ニューヨーク大学ロースクール	米国	2006年
香港大学・法学部	中国	2001年
華東政法大学(上海)	中国	2005年
山東大学法学院(済南市)	中国	2006年
西南政法大学(重慶市)	中国	2006年
ボルドー政治学院	フランス	2007年
ボン大学法・経済学部	ドイツ	2008年
ハノーバー大学・法学部	ドイツ	2011年

留学生との交流

現在、法学研究院では大学院と学部を合わせて20カ国以上の国から100名近くの留学生が学んでいます。この多様な留学生を生活や学習の面からサポートするのが**サポートチーム**です。サポートチームは多くの留学生が最初に出会う日本人の友人でもあります。また、サポーターをすることで、日本にいながらにしてさまざまな国のあり方の一片に触れることができ、異なる背景を超えたコミュニケーション能力を磨く機会ともなります。毎年2回、法学部が開催する留学生パーティーは日本人と留学生の友好を深めるいい機会です。



九大法学部で 世界を広げましょう!!



国際教育

法学府(大学院)には日英両語による修士課程(BiP)、英語のみによる法律系(LL.M)と政治学系(CSPA)の3つの**国際修士課程**と、法律系の国際博士課程(LL.D)があります。もちろん日本人学生も受験できます。これらの国際コースは、**学部教育の国際化**にも一役買っています。

「留学はしたいけどなんだか不安だ」という人は、まず九州大学で提供されている英語による授業に参加することをお勧めします。一般教養科目には留学生センターで実施されているJapan in Today's World(JTW)、Asia in Today's World(ATW)やASEAN in Today's World(ASTW)があります。必修の英語科目は多様なレベルと内容で、法学部学生それぞれのニーズと関心に応えられるように工夫されています。専門課程に進んだら、法学府国際コースの授業を聴講してみましょう。英語力を磨きながら留学の心構えをすることができます。

このようにそれぞれの段階で提供されている国際教育をうまく活用して交換留学を経験し、ひいては国際コースへの進学も進路選択のひとつとすることもできるでしょう。

国際コースでは授業のほかにも、その時々トピックスを取り上げた講演会やシンポジウムなどが数多く英語で開催されていて、法学部学生の参加も大歓迎です。

いろいろな支援

留学をするには国際的に認められている**語学能力試験**の結果を提出することが求められるのが一般的です。たとえば英語であれば、TOEFLやIELTSなどです。こうした語学能力試験の受験を応援するために、法学部は、受験料の一部または全部を補助する制度を提供しています。このような語学能力試験の結果は、留学だけではなく、就職や社会活動にも活用できるものです。

また、いざ交換留学が決まれば、航空運賃の**一部補助**を受けられる制度もあります。

こうした国際交流や留学については、**留学・留学生担当教員**が相談に応じています。

留学体験記

【留学先】山東大学(中国)

【期間】2011年2月～2011年8月

法学部3年 松藤 愛子



私は、中国山東省済南にある山東大学に約半年間交換留学しました。

山東大学は、1901年に国内2番目の公立校として設立された有名大学です。九州大学と同じく、済南市の至るところにキャンパスが点在しており、どのキャンパスでも生徒たちの活気あふれる様子が見受けられます。国際交流に積極的に幅広く留学生を受け入れているのが特徴です。

留学当初は、1年間第2外国語で中国語を学んでいたと言っても、ネイティブの話す言葉はほとんど聞き取れず、生活用品を揃えるにも一苦労でした。さらに、文化の違いは大きく、生活習慣(例えば昼寝の習慣や買い物の値切りの習慣)や食生活の違い(例えば主食が饅頭や水餃子であること)にとまどうことも多かったです。

授業は、留学生のみで中国語を学習する語学教育と中国人学生と共に受ける法学の専門教育の両方を受けました。留学生のみの授業では、中国以外の様々な国の人々ともふれあったので興味が世界全体へより広がりました。語学教育の内容も「自国のCMをみんなに説明する」というような形で、中国だけでなくいろいろな国のリアルな生活が垣間見えて面白かったです。専門教育は、言葉が難しく正直に言えば先生が言うことが全然わからないということが多かったのですが、わからないことを中国人学生に聞くことで、彼らとの交流が深まりました。

現地学生と仲良くなってからは市場に連れて行ってもらって本場の値切りを見せてもらう等、中国人にしか紹介できない「中国」をたくさん教えてもらいました。

留学を通じて特に感じたのは「私は日本の何を知っているんだろう」「今ここでできること全てをしようとしているのだろうか」ということです。留学生活の中では、「日本はどんなの?」ということをよく聞かれました。その際答えられない自分が不甲斐なく感じ、今まで日本について真剣に考えたことがなかったことに気づいたので。また、半年という限られた時間の中でできることを全て行い吸収するということを目指して行動することができたため、今までの時間の使い方を直視することができました。

留学をするということは今までとは違う位置から世界を見聞きするということです。それは知らない世界を知ることでもあり、日本を違う視点から覗くことでもあります。日本にいただけでは決してできない貴重な体験です。九州大学では、籍を残したまま外国の



有名大学で生活することができます。特に文系は、少なくとも半年であれば留年せずに卒業できる可能性があります。興味があれば、是非一度先生にお話を聞いてみることをおすすめします!

サポーター体験記

法学部3年 實政 恭平

九州大学法学部・法学府には毎年毎学期多くの留学生が来て、それぞれのプログラムの期間を私たちと同じキャンパスで過ごします。日本にやってきた留学生はまず、外国人登録や国民健康保険の加入など、やってきたばかりの彼らにとっては少々煩わしい手続きをしなければなりません。こういった最初の手続きのお手伝いをするのが留学生サポーター制度の主な目的です。

しかし実際には、こういった手続き上のサポートを事務的にこなすというよりも、日用品の買い物と一緒に出掛けたり、授業のカリキュラムについての相談に乗ったり、おススメの日本料理や観光スポットを紹介したりなど、積極的に留学生とコミュニケーションをとって彼らが早く日本での生活に慣れるようにと、友達として接する機会が多いです。

そのために活動期間として3か月が設けられていますが、留学生が日本に来て最初の日本人の友達になるわけですから、活動期間を過ぎてもサポーターという枠組みを超えて関係を築くことができると思います。

学部生としてではなく、大学が用意している様々なプログラムを利用してやって来る留学生が多く、残念なことに通常の日常生活を送っているだけではなかなか留学生と接する機会はありません。そんな中でサポーター制度を通して、留学生の友達を増やせたというのはいい経験になりました。

留学生の中には英語での授業プログラムに参加する人で、日本語が全くしゃべれない人も少なくありません。そんな留学生たちとコミュニケーションをとることで、自分にとってためになることが多いと思います。

僕の場合、2年生の後期で初めてサポーターをさせていただいたときは、YLPというプログラムでタイ・カンボジア・ミャンマー・エチオピアから来た留学生6人のサポートをしました。このプログラムを利用する留学生は、それぞれの出身国ですでに裁判官や官僚、弁護士として活動している人が多く、国の話や仕事の話などを聞かせてもらうこともできました。また、3年生の前期にはオランダからの留学生をサポートしました。九州大学と提携関係にあるティルブルグ大学(オランダ)の卒業生で半年のプログラムで来ました。年も近く、フレンドリーな学生で、サポート初日から部屋に遊びに行ったり、料理を作りに行ったりしていました。

ほとんどの留学生がフェイスブックのアカウントを持っているため、気軽にコンタクトがとれ、彼らの日本での充実した生活ぶりを見て刺激を受けることもあります。彼らが帰国した後も写真を見てコメントなどしているうちに、留学生の出身国との距離感もぐっと近く感じられるようになりました。

皆さんもサポーター制度を利用して、あまり体験することのない機会を是非作ってください。



就職・進学について

進学状況ならびに支援体制

近年、法科大学院（ロースクール）へ進学し、法曹を目指す人たちが多くなっています。ロースクールは「専門職大学院」で、修了後は「法務博士」の称号を得ることができます。適性試験、入学試験から、入学後の勉強、さらに「新司法試験」、また合格後も司法研修所での修養と、長期にわたる勉強が必要ですが、法学部ではロースクール進学を見据えたサポートを低学年時より行っています。多くの先輩が現にロースクールへと進学し、法曹資格を取得しています。さらに研究を志す人には、研究大学院修士課程、博士後期課程への進学のため、ゼミや勉強会を中心としたサポートを行っています。

就職状況ならびに支援体制

就職を希望する学生は、九州内外を問わず、有力民間企業に就職し、あるいは国家公務員ないし地方公務員となる人が多いです。法学部では、就職相談から、インターンシップ、就職ガイダンス、就職支援講演会、あるいは学修支援など、多くのチャンスを提供しています。また、法学部にキャリアデザイン専門の部署を設置し、学部として全面的にバックアップしています。ゼミの先生を中心に教職員一同、みなさん一人ひとりのサポートを行っています。小さなことでも分からないことはどしどし尋ねて、是非こうしたシステムを積極活用してください。

九州大学における学生の就職支援は、「学務部キャリアサポート課」という部署が担当しています。「学務部キャリアサポート課」では、全学的な学生の就職活動をサポートするために、就職情報室の運営、就職相談の実施、求人情報提供、就職支援イベントの開催等の就職支援業務を行なっています。

一方、法学部の求人情報、学校（教授）推薦等、学生のより身近な情報の提供については、法学部学生係で担当しています。また法学部では、「法学部キャリアデザイン委員会」を設置して学生の就職支援に関する様々な取り組みを行っています。昨年度は、以下のようなイベントを開催しました。

①「国際機関を目指す方のための就職ガイダンス」 （平成23年は6月8日開催）

国連などの国際機関での就職を希望する学生を対象に「国際機関を目指す方のための就職ガイダンス」を開催しました。ニューヨークの国連日本政府代表部で3年間、国連日本人職員の支援に携わった経験のある方を講師として招けいしました。



②「法学部企業セミナー」 （平成23年は12月8日～16日開催）

来年度の卒業予定者を対象（留学生含む）に、法学部において「法学部企業セミナー」を開催しました。平成23年度の参加企業は、野村証券、三菱UFJ信託銀行、新日本製鉄、三菱化学、富士フィルム、三井物産、川崎重工業、日立製作所、九州旅客鉄道、三菱ガス化学、西日本シティ銀行、東芝、麒麟ビール、NTTドコモ、西日本旅客鉄道、トヨタ自動車、東京海上日動火災保険、三菱重工業、住友商事、旭化成、帝人、東芝ロジスティクス、日本通運の23社です。それぞれの企業の説明や法学部の内定者の就職活動の体験談などを披露しました。



③「個別会社説明会」

本格的な採用段階の一步としての「会社説明会」も法学部で開催しています。平成23年度は、株式会社商船三井、総務省（2回）、麒麟ビール株式会社、黒崎播磨株式会社、三井住友トラスト・グループの会社説明会を開催しました。

卒業生就職先と進学者数

本学部の卒業生の代表的な就職先の近況と進学者数をまとめてみました。

■就職先(2009▶2011)

業種	就職先 [()内の数字は就職人数, 数字のない企業は1人]
地方公務員	福岡市(24) 福岡県(20) 長崎県(4) 鹿児島市(4) 熊本県(3) 沖縄県(3) 春日市(3) 宮崎県(2) 山口県(2) 佐賀県(2) 大分県(2) 鳥取県(2) 熊本市(2) 大分市(2) 下関市(2) 岡山県 高知県 北九州市 神戸市 岩国市 久留米市 佐世保市
国家公務員	裁判所(12) 法務省(2) 厚生労働省(2) 内閣府(2) 門司税関(2) 福岡国税局 福岡入国管理局 大分地方検察庁 福岡法務局 財務省 総務省 文部科学省 国土交通省
金融・保険	福岡銀行(10) 西日本シティ銀行(5) 大和証券(4) 東京海上日動火災保険(4) 肥後銀行(3) 日本銀行(3) 三菱東京UFJ銀行(3) 明治安田生命保険(3) 住友生命保険(3) 日本政策金融公庫(3) りそな銀行(3) みずほフィナンシャルグループ(2) 三井住友銀行(2) 大分銀行(2) 三菱UFJ信託銀行 日本生命保険 かんぽ生命保険 商工組合中央金庫 農林中央公庫 十八銀行 住友信託銀行 三井住友信託銀行 鹿児島銀行 損害保険ジャパン
情報・通信	NTT西日本(3) 日本放送協会 西日本新聞社 テレビ西日本 熊本放送 KDDI 楽天 鹿児島テレビ放送 共同通信社 大分合同新聞社 NTTコミュニケーションズ
電気機器	東芝(5) 住友電気工業(2) 三菱電機(2) 富士通 日立空調関東 池上通信機
輸送機器	トヨタ自動車(5) 三菱重工業(2) デンソー 川崎重工業
電気・ガス	九州電力(9) 関西電力(2) 東京電力 沖縄電力
鉄鋼・非鉄金属	新日本製鐵 黒崎播磨 DOWAホールディングス
商社・小売業	伊藤忠商事(2) 阪急阪神百貨店(2) 西松屋チェーン(2) 兼松 イオンモール セブン&アイ・ホールディングス ニトリ
運輸・サービス	西日本鉄道(2) 郵便局 JR九州 JTB九州 商船三井
食品	キリンビール 日本たばこ産業 カゴメ 味の素 サントリーホールディングス
その他	昴(2) 三菱UFJリース 大林組 任天堂 日本音楽著作権協会 九州大学 熊本大学 花王 日本政府観光局

■進学(2009▶2011)

進学	大学院(27) 法科大学院(107 内 九州大学法科大学院へは65名・その他の法科大学院42名)
----	---

LP セミナー

(ロー・アンド・プラクティス・セミナー)

法律実務家(弁護士・裁判官・検察官)らと共に「生きた法」を学ぼう。

九州大学法学部の教員と学生からなる『九州大学法政学会』では、毎年、弁護士・裁判官・検察官を講師として招いて、「ロー・アンド・プラクティス・セミナー(略称LPセミナー)」を開催しています。プラクティスとは、法の実践を意味する言葉ですが、学生の皆さんにとっては、現役の法律実務家の実体験に基づいた講義を聴き、「生きた法」を学ぶ絶好の機会とすることができます。LPセミナーは、1年次の前期に10回行われますので、法学入門の意義を兼ね備えています。また、このセミナーは、20年あまりの実績をもち、他の大学にはない九大独自の試みとして、高く評価されています。

その締めくくりとして、法律実務家と、手造りの模擬裁判という企画も準備しています。

学生の皆さんは、このプロジェクトに参加することによって、法の実際の運用や法律家の仕事の面白さに触れることができます。また、将来、法科大学院への進学を考えている学生にとっても、主体的な参加を通じて有益な示唆が得られることと思います。

模擬裁判を経験して (当日のアンケートより)

● 裁判官役として参加してみて、実際の裁判の流れを体験でき、言葉で説明されるよりもより深く理解できたと思う。原告・被告の証言と数少ない証拠だけで判断を下すことは予想以上に困難で、判決を考える時間があつという間に過ぎたことに驚いた。また、判決を考える中で、「裁判の尋問中にもつこの点について尋問すればよかった」という後悔も少なからずあつた。私は、裁判の進行・判決という裁判官の役割の難しさを肌で感じることができ、これは市民として必要な経験だつたと思う。このような場を提供して下さつた方々や、弁護士の方々に感謝したい。

● 裁判の傍聴には行ったことがありますが、実際に参加して尋問したりすることはもちろん初めての体験でした。何度もミーティングを重ね準備はしていても、証人から思いがけない話が出てくるなど、難しさを実感しました。しかし同時に、自分の証人を守ることを通してやりがいや面白さに気づきました。この体験をもとに自分の進路について考えていきたいと思いました。

● 今回の模擬裁判では、陳述書や資料を読み込みながらの準備から始めました。最初は原告と被告の主張がくい違い過ぎて、また裁判傍聴の経験もなかつたため、全体の流れのイメージがつかめず戸惑いました。でも同じチームの人たちと細かい点まで話し合いながら、弁護士の先生からも助言をいただき、なんとか本番までたどり着きました。当日は、弁論の一部を担当しとても緊張しましたが、同じチームの友人や原告役の先生に助けられて無事に終わることが出来ました。まだまだ足りない所だらけで、本職の方々はずいなど改めて思いました。今回の経験は、これからの専攻の授業を受ける際の心構えにも影響を与えらると思うし、本当に参加してよかったと思いました。

● 実際の裁判に近いものを体験することができ、裁判についての理解が深まり身近に感じられた。裁判官役として臨んだが、事案について判断することの困難さが身にしみてわかつた。今後の法律、司法の学習の一助としていきたい。



●2012年度講義

講義題目	内容	担当者
オリエンテーション		教員
刑法	犯罪論	弁護士
	犯罪論	検察官(福岡地方検察庁)
司法入門	民事手続	裁判官(福岡地方裁判所)
	刑事手続	検察官(福岡地方検察庁)
	刑事訴訟	裁判官(福岡地方裁判所)
民法	家族法	弁護士
	契約法	弁護士
	不法行為法	裁判官
模擬裁判(予定)	民事裁判	弁護士・教員



卒業生からみなさんへ



佐藤 義雄

昭和48年卒
住友生命保険相互会社
代表取締役社長

皆さん、こんにちは。私は九州大学法学部を昭和48年に卒業しました。九州大学を選んだ理由は、地元の友人や先輩が多く進学していたことありますが、なんとと言っても、その自由闊達な学風に惹かれたことです。九州という土地柄もあると思いますが、開放的な雰囲気を持った大学ですので、好奇心旺盛でチャレンジ精神あふれる方にはぴったりの大学だと思います。

私が入学した当時は、学生運動が先鋭化し学内が騒然としていました。そんな時代でしたので、政治や人間というものに興味を持ち、法学部では政治学を専攻しました。下宿先で友人と酒を飲み交わしながらラジカルな世相を反映した議論に熱中しましたが、私には歴史や人間を考える有意義な時期だったと思います。

今、社会保障制度が大きな政治問題になっています。日本の社会保障制度は、他の国と比べてよく整備されていると思いますが、それでも公的な保障だけで人生における様々な出来事に対応できるかという、公的保障だけではまかないきれない部分も多く、自助

努力が必要で、これらをカバーするのが保険です。少子高齢化により社会保障制度の持続可能性が議論されていますが、どんな形で改革が行われるにせよ自助努力は、ますます求められるでしょう。そういう意味で、生命保険の果たす役割は一層重要になると思います。このように生命保険は公共性を持った事業ですので、引き続きニーズに合った商品の開発やサービス、コンサルティングの充実に頑張っているところです。

一方、皆さんのような若い世代には社会保障制度や自助努力の大切さに、もっともっと関心をもって勉強していただきたいですね。九州大学は自由でオープンな学風です。学ぶことに不自由しません。自らの追及すべきテーマを決め、九州大学でそれにふさわしい学生生活を送って欲しいと思います。



藤澤 義貴

平成17年卒業
NHK大津放送局

私は大学時代、弁護士を志望して学んでいました。ゼミでは民法と行政を掛け持ちし、あれやこれやとトラブル事例を考えては、友人ととことん議論をする生活でした。そんな私が放送業界に進もうと考えるきっかけになったのは、香川県豊島で行ったフィールドワークです。瀬戸内海に浮かぶ豊島は、大量の産業廃棄物が不法投棄されたことで全国的に注目された島です。なぜ莫大な量の産業廃棄物が島に運ばれ、放置されたのか。豊島の住民の方からお話を伺う中で強く感じたのが、「真実」を世に伝えることの難しさでした。豊島には自動車を破砕した時に出るゴミが大量に運び込まれていました。しかし、当初は、処理業者があくまで「資源」だと主張し続けたため、当時の法律のもとでは、行政が不法投棄の問題として対処に動き出すことができませんでした。また、不法投棄の実態が明らかになっても、今度は、処理業者が撤去費用をねん出することができませんでした。結局、国や県に処理費用の負担を求めるしかありませんが、そのためには、被害の重大さを社会に認識してもらうための血のにじむような

住民活動が必要だったのです。

何が問題かを見抜き、確かな取材のもとに世に訴えていく。それができれば、多くの人たちの生活をより良いものにできるのではないかと。それが、私が放送業界に進もうと考えた動機です。

私は、ジャーナリストにとって活躍できるかの生命線は、「いま何が問題か」を感じ取るセンスと、その問題を納得できるまで掘り下げて調べる取材力だと考えています。ただ、その基礎となるトレーニングは、大学生活でも十分できるのではないのでしょうか。法学部で学べることは、たくさんあります。資料を読み解き、論理を考え、多くの人が「妥当」だと考える結論を導き出す。その過程は、報道機関の取材と大きく違うものではありません。ぜひ、大学では多くの人に出会い、多くの人物の考え方を吸収してください。——「人との出会いは成長の始まり」それが私が大学で学んだ精神です。



平成19年卒
判事補

熊本県の片田舎で過ごした幼少時代。高校3年生の時に、「あんた九州の人間なんだけん、九州におりんしゃい!」「嫌ばい!俺は東京に出てビッグになるつたい!」そんな青臭いやりとりの結果、親の反対を押し切り、前期入試で一橋大学に挑むも、あえなく撃沈。浪人を覚悟していたところ、後期入試で受験した九州大学に運良く拾われて、私の九大ライフがスタートしました。

最初の春。友人宅で男同士軽いノリから始まって、今では大親友になったクラスメートたち。学食と六本松マックとビリヤード場が主な活動場所。教養ゼミでは経済学部の遠藤雄二先生のゼミを選択し、学園祭でソバメシ屋「ビーンズ」を出店、たくさん馬鹿やりました。

勧誘されてなんとなく入った法律相談部では、いい先輩たちに恵まれ、取得したての免許証で、先輩ツラして海へ山へと九州全県レンタカーで旅行三昧。人生初の法律相談も体験しました。また、八田卓也先生(現神戸大学法学研究科教授)の民事訴訟法ゼミでは、民訴のイロハを学びました。この時は、まさか自分が裁判官になるとは…。

途中から法律家を目指そうと心に決め、同級生と図書館に通ってお勉強。「松法会」では同じ志を持つ卒業生の先輩たちからたくさん

可愛がってもらいました。このときの仲間達は、弁護士になった人も、別の道に行った人も、様々。活躍の便りを聞くと嬉しくなります。

最後の冬。法科大学院への進学自体は決めていたものの、九大に残るかどうかが少々悩みました。大学入試の時にはあれほど東京に出たいと思っていたのに、我ながら不思議だなあと思います。結局、4年越しのリベンジを果たし、一橋大学法科大学院に進学することになりました。

あっという間に過ぎていった4年間。私は、特別な功績を残したわけでもなければ、成績優秀だったわけでもない。ごくありふれた大学生生活だったように思います。けれど、九大は、私にとって、法学の原点であるとともに、人想いで、一緒に馬鹿になれる仲間たちと出会った大切な場所。

その後、2年間のロースクール生活、1年間の福岡での修習を経て、現在、東京地方裁判所民事41部(よいぶ)で、裁判官を務めています。九大で過ごしたあの日々は、血となり肉となって今の私を支えてくれているのだらうと思います。

熱いキャンパスライフを謳歌したいそこのキミ、九大が待つとるばい!



深江 陽子
平成12年卒業
平成15年修士修了
三菱自動車工業株式会社
(Mitsubishi Motors Europe B.V. 出向中)

大学時代から数えて5つ目の海外の街、オランダのマーストリヒトで現在暮らしています。九大時代は労働法ゼミに参加し、欧州の労働法に興味を持ちました。4年生の時に仏・ストラスブール大学に留学し、大学院時代は仏・ルノー財団の奨学生として再び渡仏。九大とストラスブール大学の両大学で修士号を取得するプログラムを終了後、三菱自動車に入社し法務部で働いています。会社に入ってから米国のロースクールで米国法を勉強しました。

2011年から三菱自動車のオランダ子会社に出向しています。本邦本社・欧州子会社と連携しながら企業再編(M&A)におけるリーガルサービス(契約作成・交渉)のほか、多種多様な契約審査、訴訟指揮を行うことが私の主な職務です。外国企業と交渉のテーブルに着く案件がほとんどで、国・地域により対処の仕方を変えながら取引をサポートしています。具体的には、各国の弁護士事務所を起用し、最新の法律と実務を勉強しながら各プロジェクトを取り進めるといった具合です。交渉が終わるまで帰国できないことも多々ありますが(!)、それぞれの文化やメンタリティを考慮しながら、さまざまな国籍の人たちとプロジェ

クトを纏めることはとてもチャレンジングで、面白い仕事だと感じています。一方で、いろいろな国に行き、人と会い、話をするのは楽しみの一つでもあります。

九大ではゼミに加えて外国法の書物を原語で読む講座にも参加していました。自分自身で原書を読み、分析を発表したり。留学時代は当初、法学部の授業のフランス語のスピードについていけず、焦りましたね。自ら選んだ留学でしたし、弱音は吐けない。とにかく勉強しました。でもどうにかなるものです。こうした時間があつたからこそ、今の自分があると信じていますし、現在も親交のある諸先生方や時折滞在先の外国に遊びに来てくれる友人たちに恵まれた幸運にも感謝せずにいられません。

兎角目先のことはかりに焦点が行きがちな世の中ですが、九大でいろいろなことにチャレンジして、自分に向き合ってみては如何でしょうか。自分がやりたいことをするためには何をすれば良いのか考えて、失敗を恐れず行動に移してみる。そうこうしているうちにチャンスが巡ってくる。九大での時間が世界に出てさまざまなビジネスに携わる前の、刺激的な準備期間となること、請け合いです。



お問い合わせ先

九州大学法学部の研究・教育内容などで不明な点は、
 貝塚地区事務部教務課学生第三係(法学部担当)に
 お問い合わせください。

〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目19番1号
 TEL 092-642-3166(ダイヤルイン)
<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/>

先生方の近著書一覧



①五十君教授【ローマ法】
 遠藤准教授【民法】
 笠木准教授【社会保障法】
 笠原准教授【商法】
 小島准教授【知的財産法】
 豊崎准教授【刑事訴訟法】
 原田准教授【行政法】
 南野准教授【憲法】
 南野 森(編)
 『ブリッジブック法学入門』
 (ブリッジブックシリーズ)
 信山社、2009年5月15日発行



②鶴田准教授【民事訴訟法】
 鶴田 滋
 『共有者の共同訴訟の必要性
 一歴史的・比較法的考察』
 2009年8月22日発行



③西准教授【中国法】
 西 英昭
 『『臺灣私法』の成立過程
 一テキストの層位学的分析を中心に』
 九州大学出版会、2009年10月15日発行



④野田教授【労働法】
 山下准教授【労働法】
 山下 昇一 敏(編著)
 『変容する中国の労働法
 一「世界の工場」のワーカーズ』
 (九大アジア叢書14)
 九州大学出版会、2010年1月20日発行



⑤木村准教授【政治学史】
 木村俊道
 『文明の作法一初期近代イングランド
 における政治と社交』
 ミネルヴァ書房、2010年4月30日発行



⑥村西准教授【憲法】
 村西良太
 『執政機関としての議会
 一権力分立論の日独比較研究』
 (九州大学法学叢書4)
 有斐閣、2011年2月25日発行



⑦野田教授【労働法】
 野田 進
 『事例判例労働法
 一「企業」視点で読み解く』
 弘文堂、2011年3月15日発行



⑧笠木准教授【社会保障法】
 野田教授【労働法】
 山下准教授【労働法】
 野田 進(編)
 『判例労働法入門(第2版)』
 有斐閣、2011年4月25日発行



⑨安西教授【憲法】
 安西文雄=巻 美矢紀=穴戸常寿
 『憲法学読本』
 有斐閣、2011年12月10日発行



⑩直江教授【西洋法制史】
 ジョン・フォーテスキュー
 (直江真一訳)
 『自然法論』
 創文社、2012年1月25日発行



⑪笠木准教授【社会保障法】
 野田教授【労働法】
 山下准教授【労働法】
 野田 進=野川 忍=柳澤 武=山下 昇(編)
 『解雇と退職の法務』
 商事法務、2012年3月20日発行



⑫赤坂准教授【憲法】
 曾我部真裕=赤坂幸一(編)
 『憲法改革の理念と展開
 一大石眞先生遺稿記念(上巻・下巻)』
 信山社、2012年3月30日発行



⑬上田准教授【民事訴訟法】
 江口教授【法社会学】
 兼重助教【紛争管理論】
 江口厚仁=林田幸広=吉岡剛彦(編)
 『国外に立つ法/理論
 一法の領分を考える』
 ナカニシヤ出版、2012年4月18日発行

2013

The Faculty of Law Kyushu University

九州大学法学部案内

〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目19番1号

TEL 092-642-3166

<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/>

